

第1回 福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会



と き 平成30年6月4日(月)

ところ 福島市役所4階 庁議室

(1) 福島市中心市街地将来ビジョン検討委員会について

【役 割】

本市は、県都として政治・文化等の中心としてのみならず、
県北地域全体の活性化・人口定住の拠点であることから、
「**風格ある県都ふくしま**」を目指し、交流人口の拡大や中心
市街地の賑わい形成に向け、誘導する**高次都市機能の機能強化**
の検討を行う。

また、「福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会」と
連携を図り、**まちづくりに必要な機能を面的に整理検討し、**
「福島駅を中心とする中心市街地の将来ビジョン」を取りまとめ、
年内に検討結果を市長へ報告する。

この検討結果を踏まえ、年内に中心市街地の将来ビジョンを
市が決定・公表する。

(2) 中心市街地におけるまちづくりについて

◆ 福島市のまちづくりにおける上位計画等

① 県北都市計画区域マスタープラン（H26.5月）

県北都市計画区域における「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」
都市計画の目標、区域区分の有無、主要な都市計画の決定方針等を定めるもの

② 福島市都市マスタープラン（H29.3月）

本市の都市計画に関する基本的な方針で、都市計画を中心とする都市づくりの根拠
となる指針

③ 福島市立地適正化計画（都市機能区域 H29.3月、居住区域H31.3月予定）

本市が都市全体の観点から作成する、居住機能や福祉・医療・商業等の都市機能
の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープラン

④ 第2期福島市中心市街地活性化基本計画（H27～H32）

中心市街地の活性化のために実施すべき施策に関する基本的な方針
（内閣総理大臣の認定）

① 県北都市計画区域マスタープランにおいては、

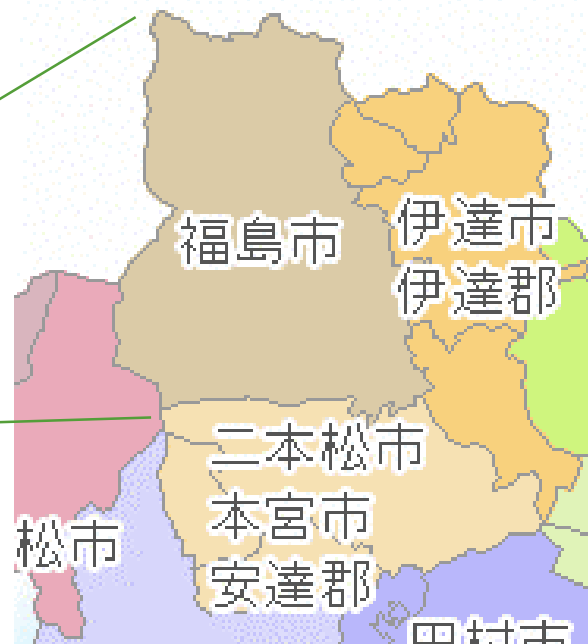
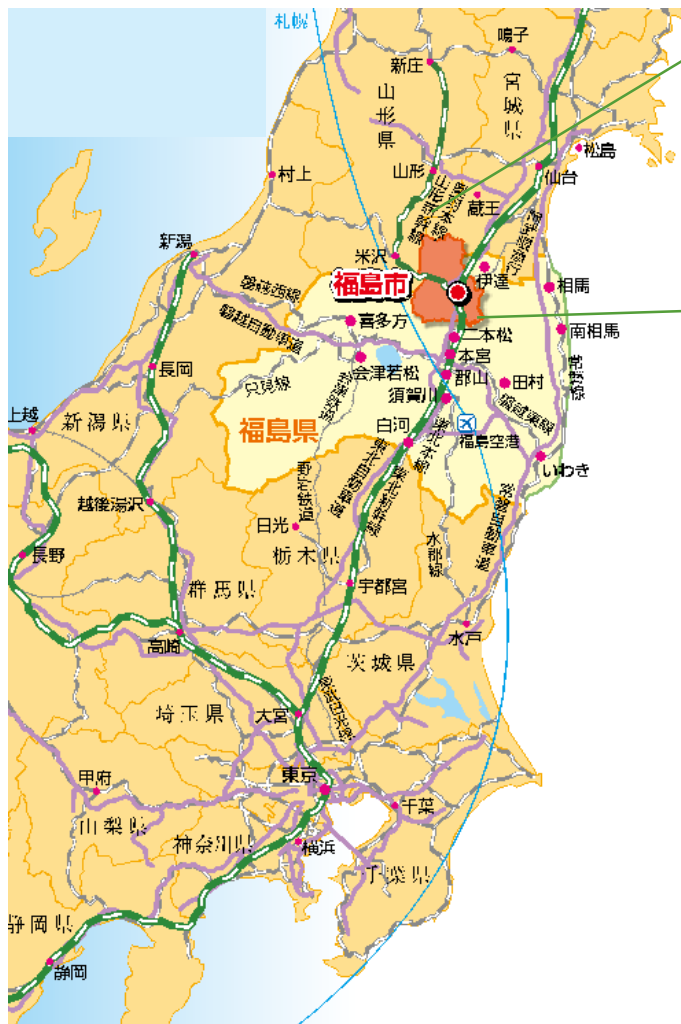
「福島市の中心市街地は、**県北広域都市圏の圏域都市拠点**として、**商業、教育、文化、医療・福祉、広域行政等、多様な都市機能の充実を図るものとする。**」と位置付けている。

② 福島市都市マスタープランにおける

中心市街地活性化に関する方針では、

- 中心市街地は、**県都にふさわしい魅力あふれる広域的な拠点**として、**商業・業務・医療・介護福祉・コンベンション・教育文化・交流・情報発信・まちなか居住などの都市機能の集積強化**を図ります。
- 既存施設の空き店舗等を生かしつつ、**福島駅を中心とした賑わいある集約拠点**の強化を図ります。
- 循環バスや自転車等の利用促進も含めて、歩いて楽しめる**回遊環境の充実**を図ります。
- 中心市街地の優れた交通条件や**都市機能集積**を生かし、**まちなか居住を促進**します。

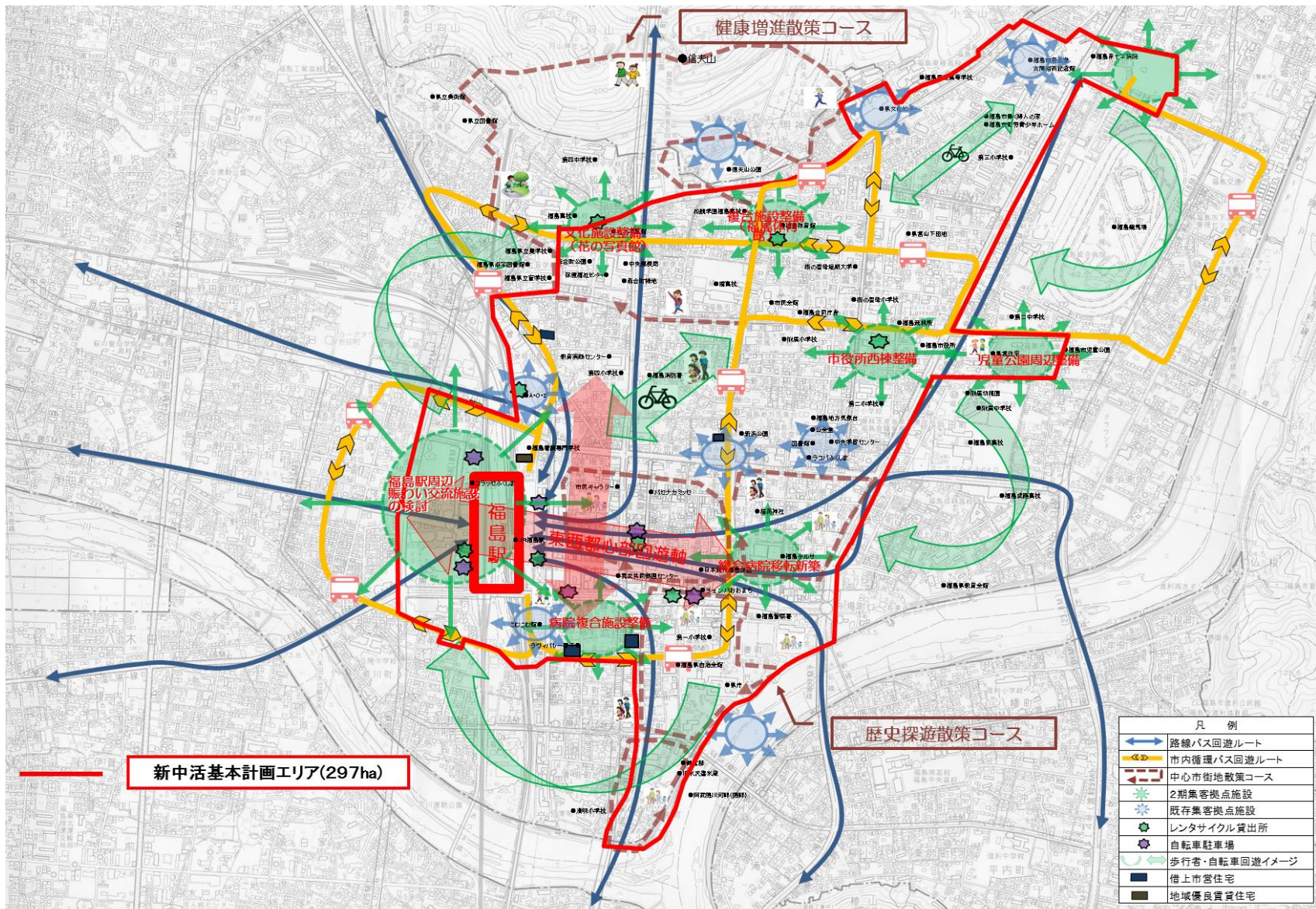
◆ 福島市の概要



■ 主要データ(H30.4 福島市の推計人口)

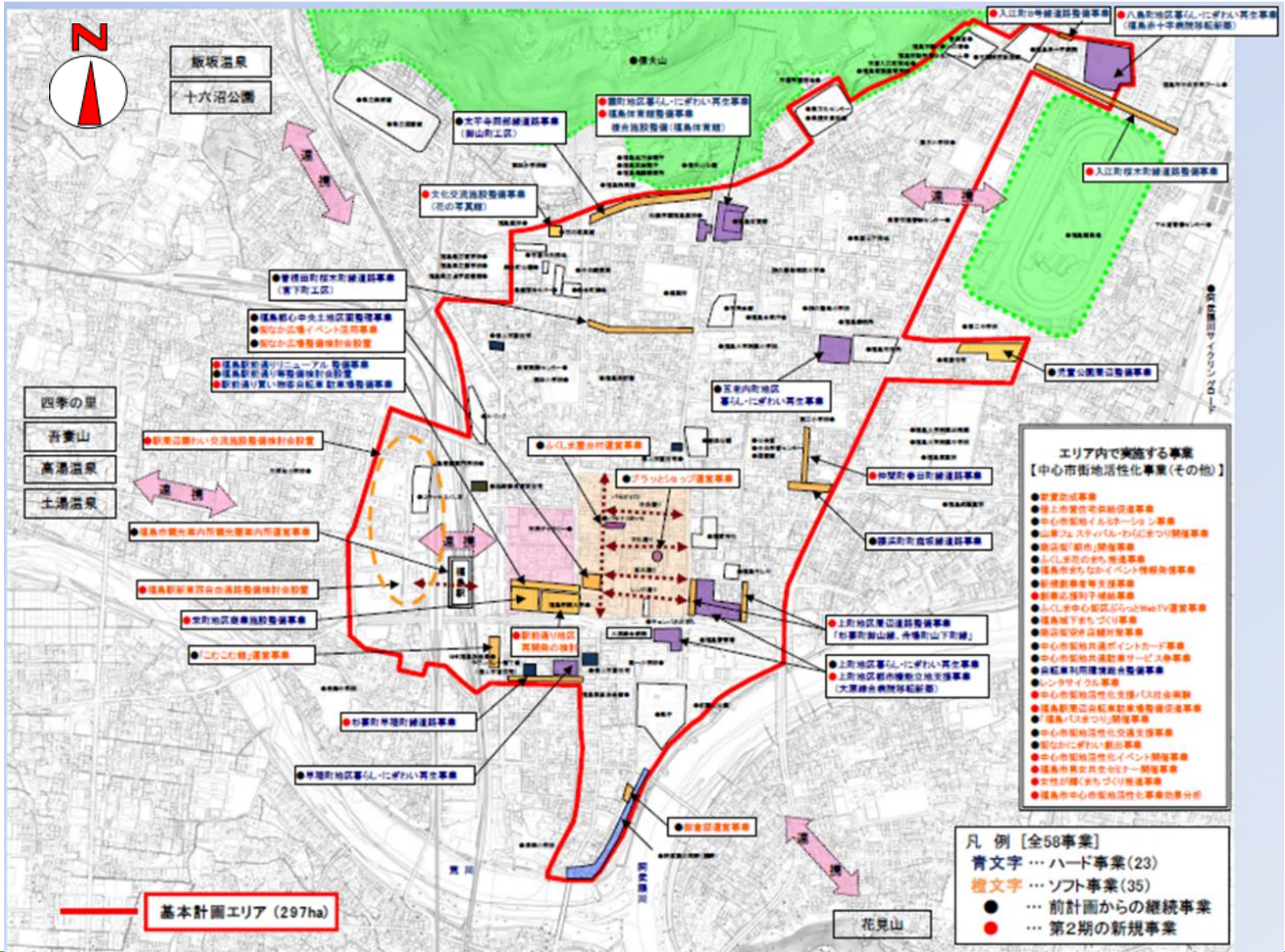
- ・人口 288,598人
- ・男性 141,464人
- ・女性 147,134人
- ・世帯数 123,509世帯 (2.3人/世帯)
- ・面積 767.72km²
- ・うちDID面積 39.81km² (5.2%)
- ・人口密度 367人/km²
- ・DID人口密度 4,365人/km²

◆ 拠点施設の回遊イメージ



凡例	
	路線バス回遊ルート
	市内循環バス回遊ルート
	中心市街地散策コース
	2期集客拠点施設
	既存集客拠点施設
	レンタサイクル貸出所
	自転車駐車場
	歩行者・自転車回遊イメージ
	借上市営住宅
	地域優良賃貸住宅

◆ 第2期福島市中心市街地活性化基本計画



◆ 現在の**主な事業**の状況

(完了)

- ・ 福島駅前通り**リニューアル**整備事業、**修景整備**
- ・ **大原総合病院**移転新築事業、**上町テラス**
- ・ **早稲町地区**複合施設整備事業

(現在事業中)

- ・ 上町地区周辺**道路**整備事業、旧病院**解体中**
- ・ 大町**地下横断歩道**整備事業（EV設置など）
- ・ 福島県立**医科大学新学部**整備事業（本体、オープンスペース）
- ・ 福島**赤十字病院**移転新築事業（本体、周辺道路整備など）
- ・ 福島**体育館**整備事業（本体、外構）
- ・ 東口駅前**再開発**の動き

◆ 福島駅前通りの移り変わり



◆ 福島駅前通りリニューアル整備事業 ⇒ 完了



駅前通りリニューアル完了
(駅前より) H30. 4



リニューアル完了式典

◆ 大原綜合病院移転新築事業（本院、上町テラス） ⇒ 完了

（上町開発(株) 施工）

○事業概要

施行者	一般財団法人 大原記念財団	理事長 平子 健
施設内容	総合病院、立体駐車場、店舗 等	
敷地面積	約6,192m ² （病院棟）	約4,010m ² （立体駐車場、店舗棟）
用途地域	商業地域、防火一部準防火地域	
総事業費	約180億円	
新病院開院	平成30年1月1日	
構造・規模		

●病院棟（免震構造）

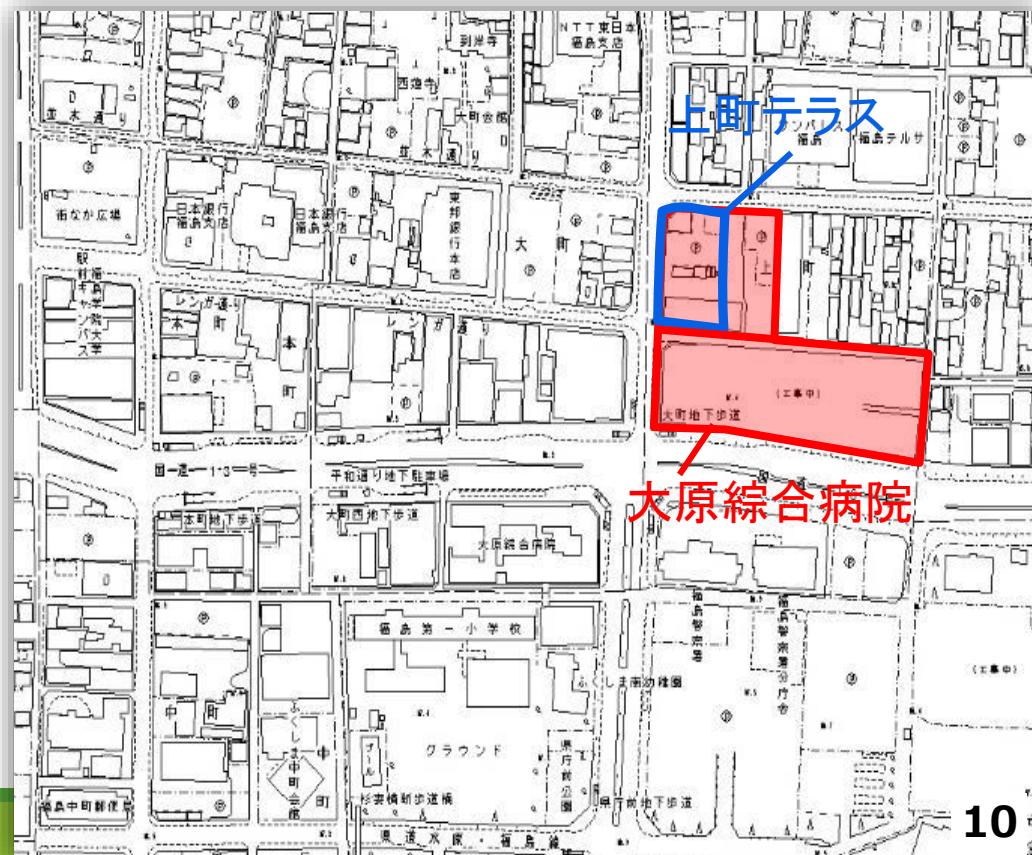
鉄骨造 地上10階建て
約26,256m²
353床（現在429床）

●立体駐車場棟

鉄骨造 地上5階建て
約11,700m² 約420台

●店舗棟（上町テラス）

鉄骨造 地上4階建て
約3,300m²
ラーメン店



大原総合病院移転新築事業（本院、立体駐車場、上町テラス）



【上町テラス】

施行者 上町開発（株）

- 1階 アイン薬局、ラーメン店、ヤクルトほか
- 2階 夜間急病診療所、大原ホール
- 3階 事務所
- 4階 エンゼル保育所

◆ 早稲町地区複合施設整備事業 ⇒ 完了

○ 事業概要

施行者

(株) グリーンアカデミー 代表取締役 菊池節夫ほか

施設内容

医療施設、血液透析センター、分譲共同住宅（45戸）

店舗（ドラッグストア）、有料老人ホーム（48床）

立体駐車場（202台）、平面駐車場（24台）等

敷地面積

約4,955m²

用途地域

商業地域、準防火地域

総事業費

約45.7億円

構造・規模

● 病院棟

病院棟 H28.12開院
(夜9:00まで営業)

鉄筋コンクリート造

地上5階建て 約5,264m²

● 立体駐車場棟

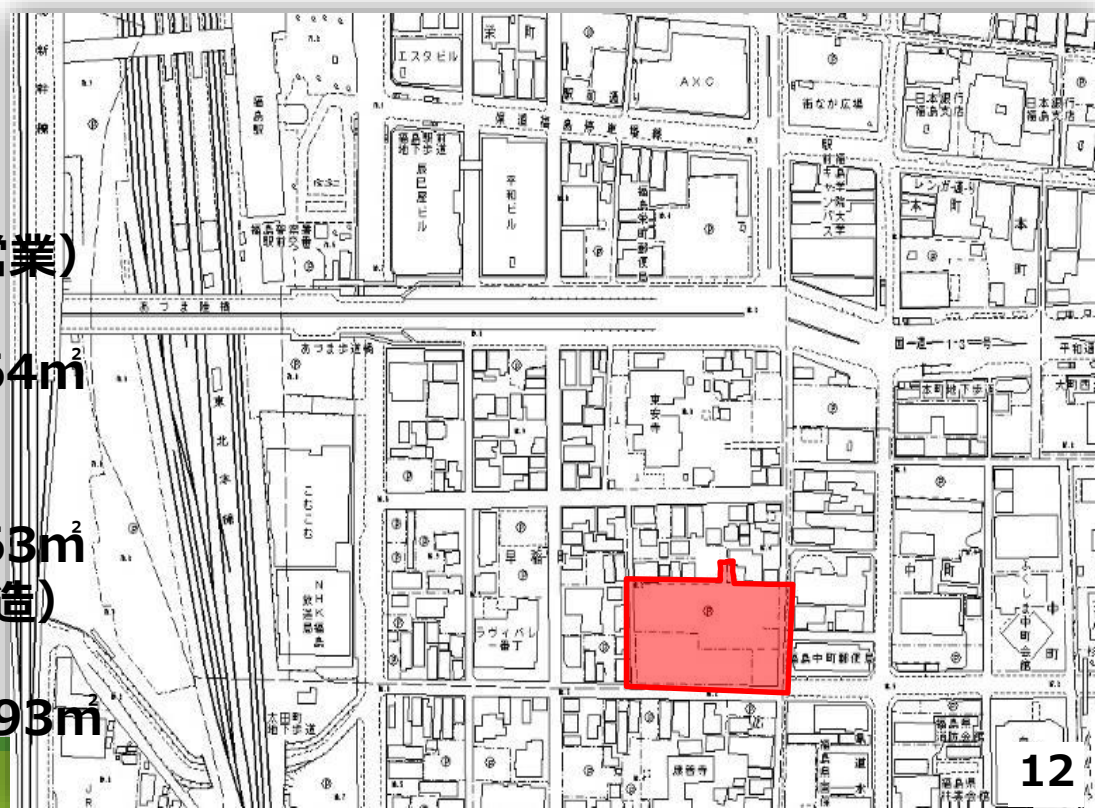
鉄骨造

地上4階建て 約4,363m²

● 分譲共同住宅棟 (免震構造)

プレキャストコンクリート造

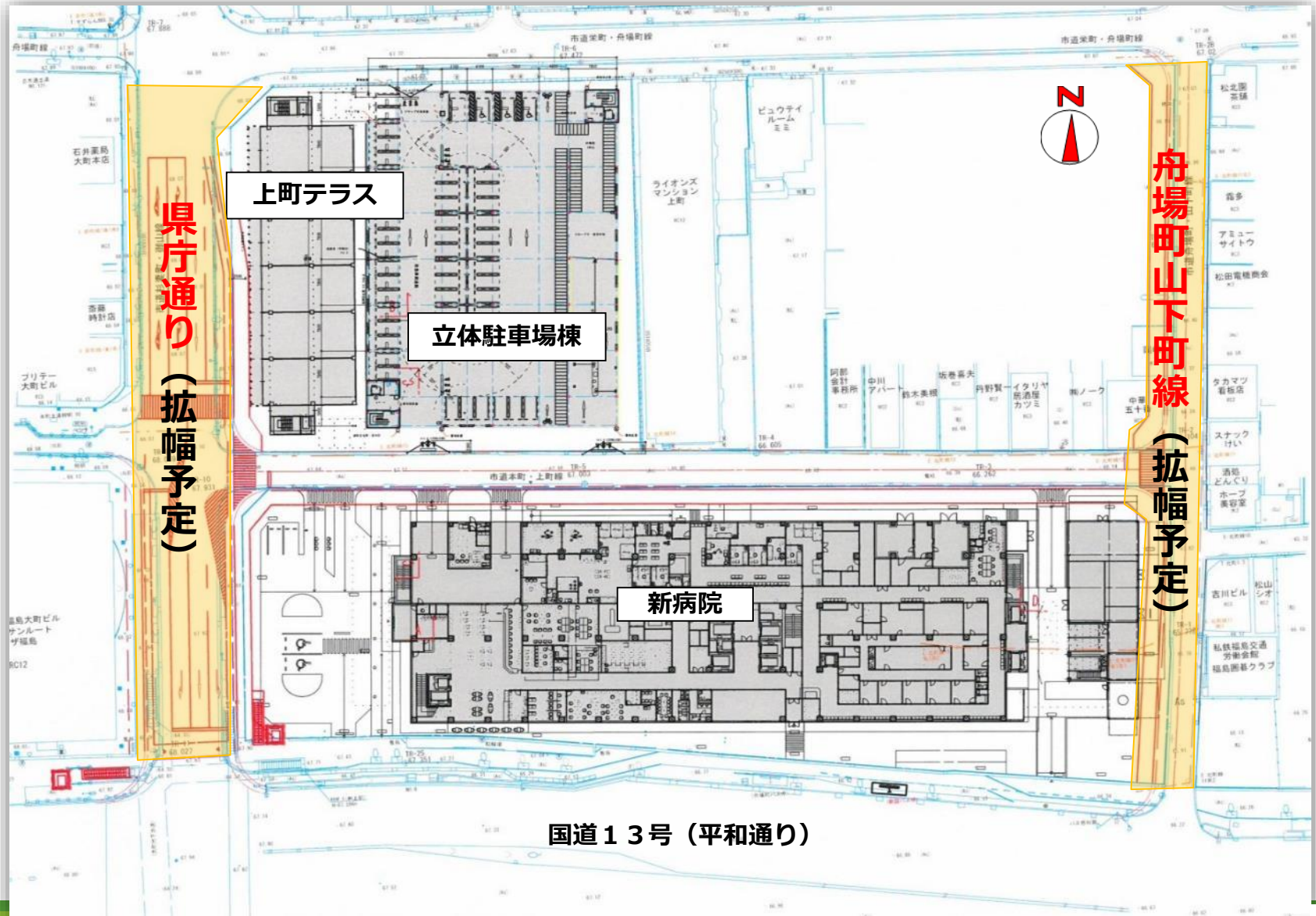
地上14階建て 約4,993m²



分譲マンション・病院棟 完成写真



◆ 上町地区周辺道路整備事業



県庁通り

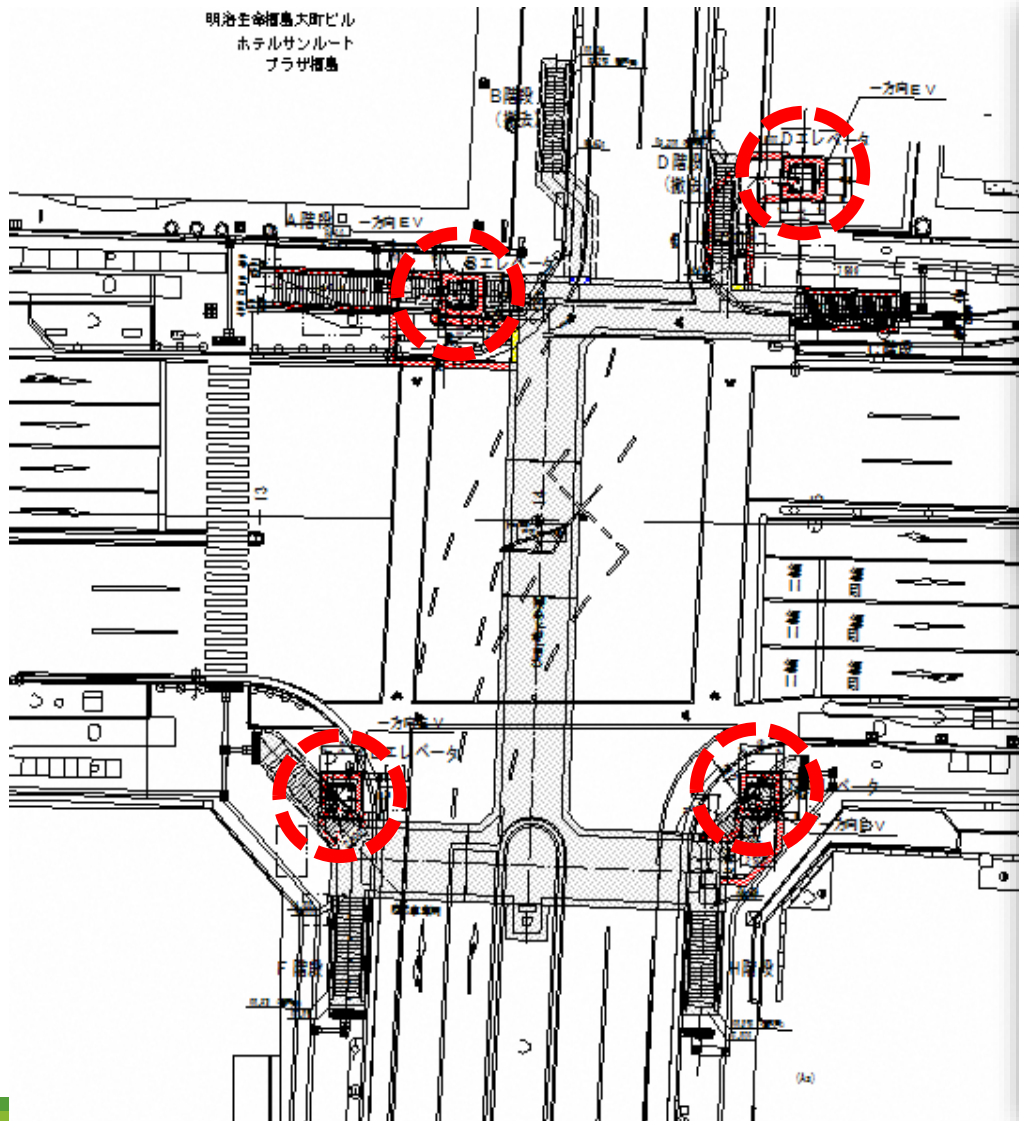


舟場町山下町線

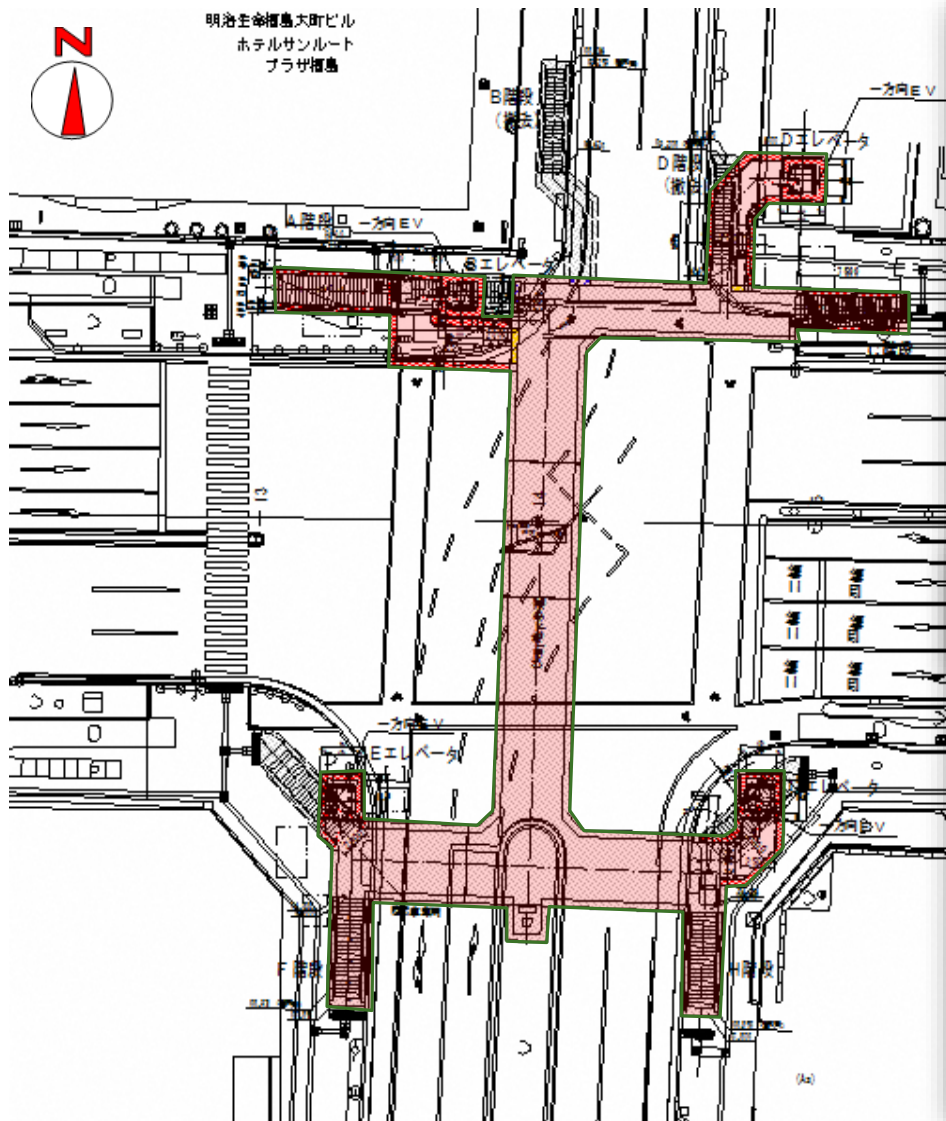


◆ 大町地下横断歩道整備事業（EV設置）

明治生命福島大町ビル
ホテルサンルート
プラザ福島



大町地下横断歩道整備事業（地下歩道リニューアル）



◆ 福島県立医科大学新学部整備事業

○事業概要

- ★福島市が平成29年度に既設建物解体後、福島県へ土地を賃貸
- ★福島県が建物を整備し、医大が運営予定
- ★福島市は建物整備に併せ、駅前通りと連携したオープンスペースを整備

基本的な考え方、組織

保健医療従事者人材の養成、卒業生の県内定着を踏まえ、
県立医科大学の新たな学部・4学科の設置を想定

学生定員 1学年145名（4学年 580名）

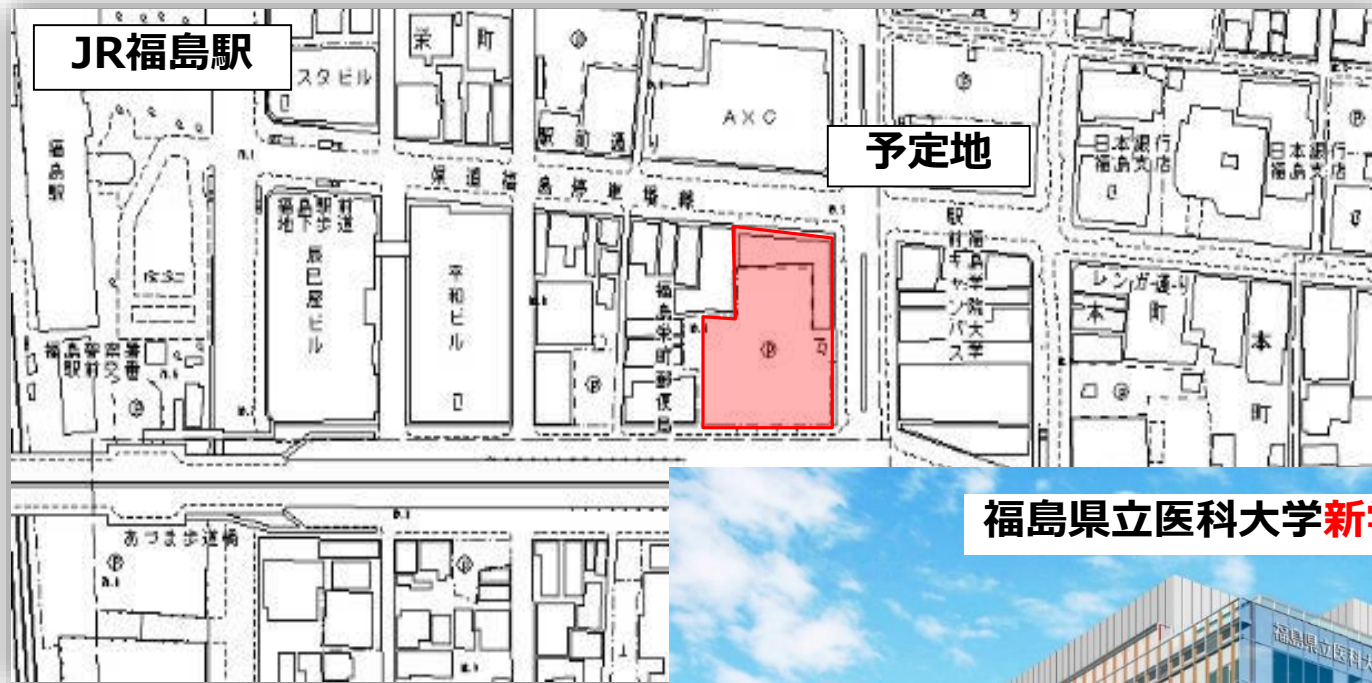
理学療法士	40名	作業療法士	40名
診療放射線技師	25名	臨床検査技師	40名

施設内容

敷地面積	約3,000㎡		
構造・規模	鉄骨造一部鉄筋コンクリート造	地上8階	地下1階
延べ面積	約18,000㎡		

○スケジュール

基本実施設計	平成28年度～平成29年度
建設工事	平成30年度～平成32年度
開設	平成33年4月予定



福島県立医科大学新学部イメージパース



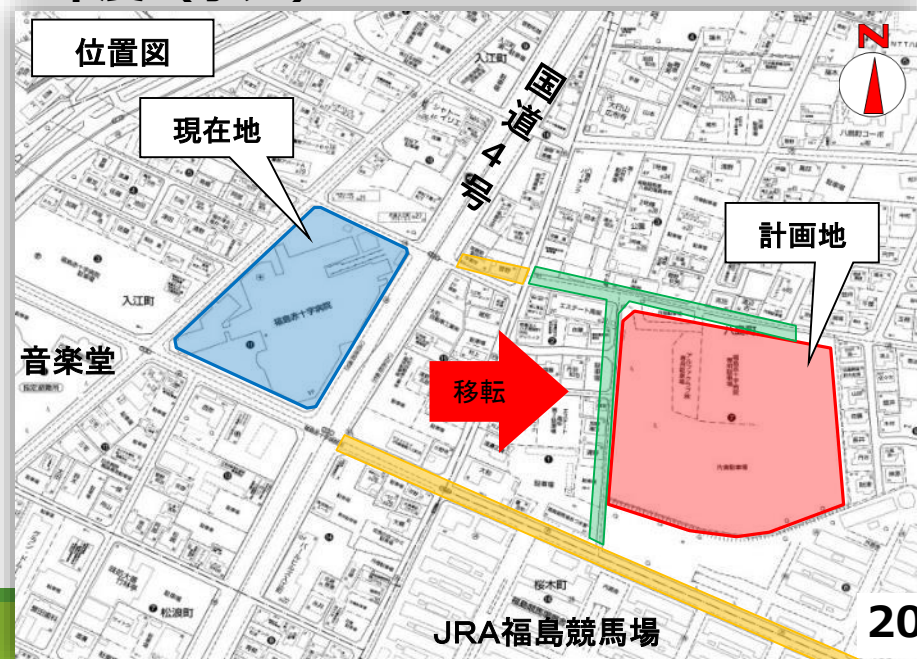
◆ 福島赤十字病院移転新築事業（本体＋周辺道路整備）

○事業概要

施行者	日本赤十字社 福島赤十字病院
施設内容	総合病院、立体駐車場
敷地面積	約 17,740m ²
用途地域	第2種住居地域、法22条地域
構造・規模	病院棟 約 21,000m ² 288床（現348床） 鉄骨造 地上7階建（免震構造）
	立体駐車場 約 3,200m ² 鉄骨造2層3段
事業年度	平成26年度～平成30年度（予定）
総事業費	約 124.4億円

○スケジュール

平成27年度	実施設計等
平成28年10月	建設工事着工
平成31年1月	新病院開院予定



完成予想図



現況工事写真（西より）



現況工事写真（上空より）



◆ 福島体育館整備事業（本体＋外構）

○事業概要

施行者 福島市長 木幡 浩
建物用途 体育館、会議室、多目的ホール、駐車場等
敷地面積 約10,678.5㎡（第一種住居地域、準防火地域）
構造・規模 鉄筋コンクリート造 2階建て
延べ面積 約7,507㎡
事業年度 平成27年度～平成30年度

○スケジュール

施設オープン 平成30年10月予定

内部完成予想図(南西より)



アリーナ予想図



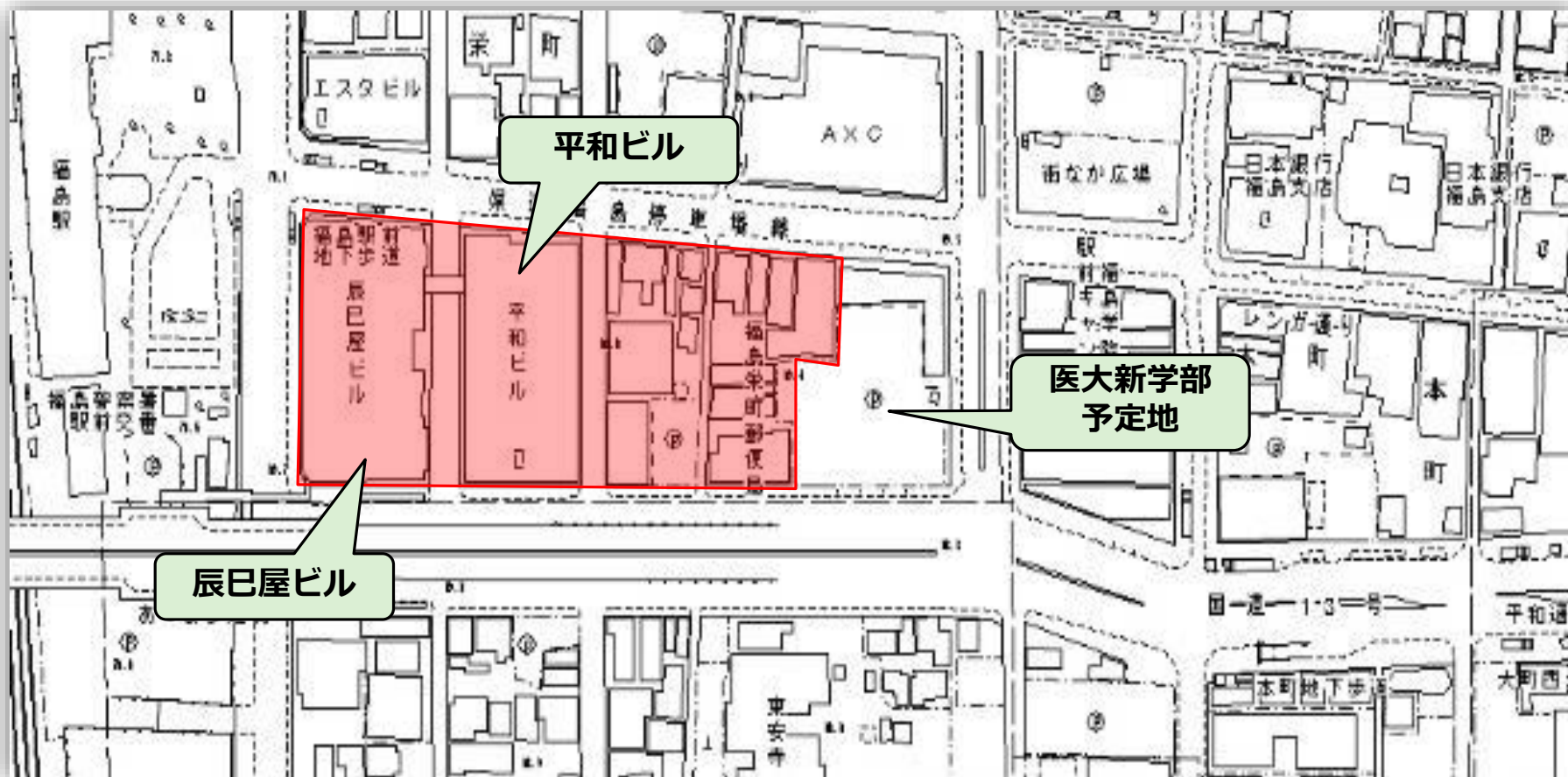
完成予想図(南西より)

現況工事写真（西より）



◆ 東口駅前再開発の動き

駅前再開発準備組合 理事長 塚原洋一 組合員 14名
準備組合設立 H30.4.2
事業協力者 野村不動産
用途 商業、業務、ホテル、居住、駐車場等を予定



(金曜日)
2号
(日刊)

福島民報

2018 (平成30) 年 5月11日 金曜日

発行所 福島県福島市

福島駅東口 再開発事業 本格化

不動産管理会社 辰巳屋ビル取得 準備組合が発足

福島市のJR福島駅東口前の再開発が本格化する見通しとなった。同市の不動産管理会社「辰巳屋ビル」は白黒で、中合福島店やホテル辰巳屋が入る中合福島の辰巳屋ビルを再開発する方針を示している。再開発区域は約二万二千方メートル、大塚の地権者が加わり、事業体となる福島駅東口市街再開発準備組合(組織)は、県の中心市街地活性化計画に併せて、年内に今後のスケジュール、事業内容の方向性を固める方針。

エスケイワンは、研究会の一角を担う。辰巳屋ビルは、活性化や、材質改良、駅前再開発を目指す。旧中合福島店、福島の活性化を、計画区域は「地図」に入っている平和ビルから、辰巳屋ビルまで、約二万二千方メートルの範囲を再開発する方針。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。

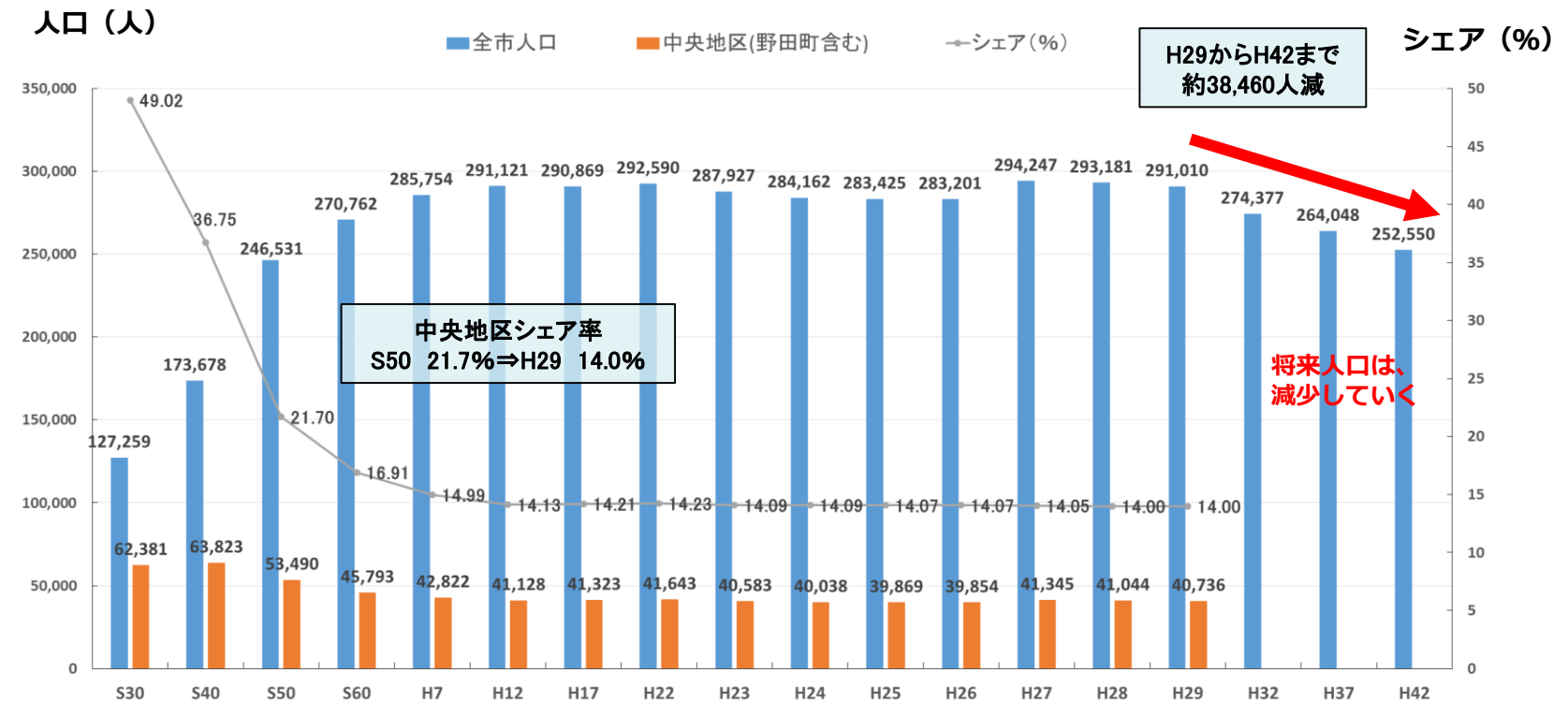
準備組合は、研究会の一員として、野村不動産を所有していた辰巳屋ビルを、土地と建物を一括して取得し、今後、商業施設やマンションを建設する方針。辰巳屋ビルは、辰巳屋ビルが、中合福島店や中合福島店と転借契約を締結することになり、再開発の準備が完了する。再開発の準備が完了する。



(3) 中心市街地の課題整理について

①現状の人口動向について

全市と中央地区の推計人口（各年10月1日現在）

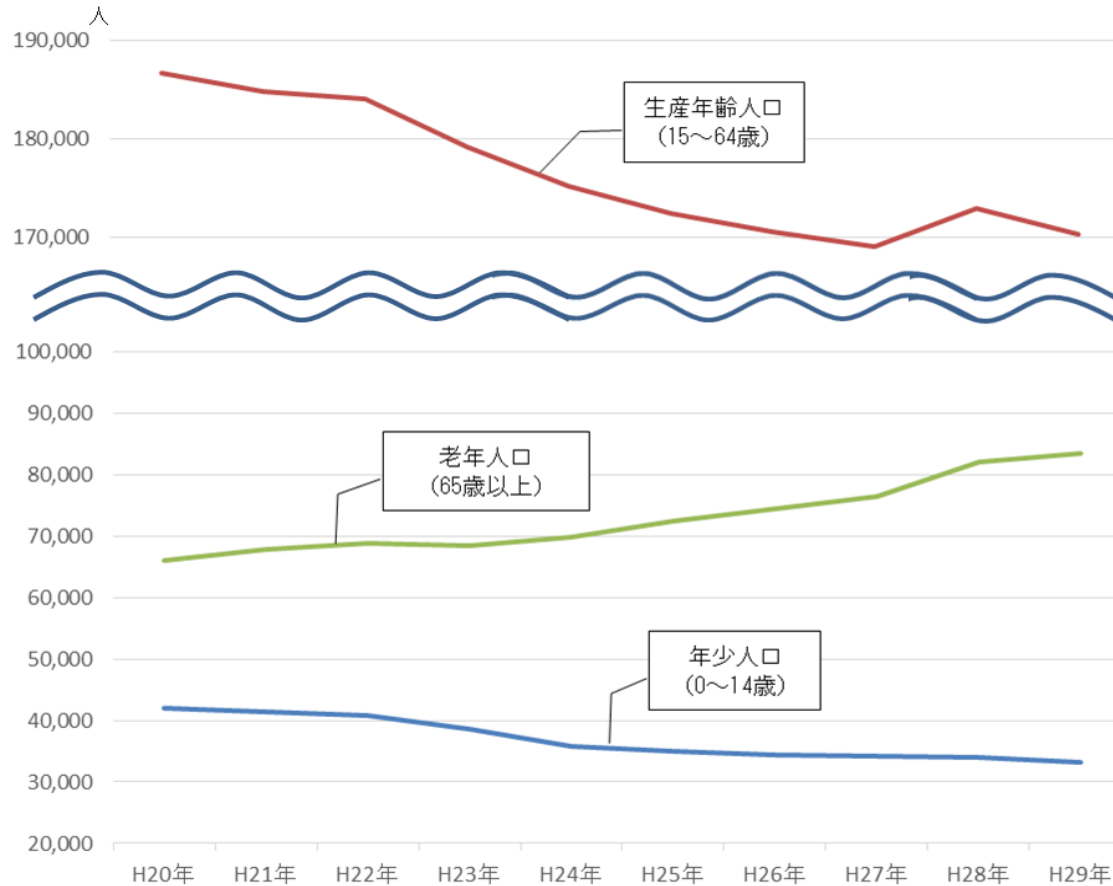


福島市「福島市の推計人口」

人口が減少しており、将来も減少していく

中央地区の占める割合も減少

年齢3区分別人口の推移（各年7月1日現在）



福島市「福島市の推計人口」

生産年齢人口・年少人口は減少し、老年人口は増加している

男女別人口に占める20・30歳代の割合

(単位 %、※)

市名	平成30年3月1日				平成23年3月1日			
	20～29歳		30～39歳		20～29歳		30～39歳	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性
福島市	9.5	8.4	11.1	10.3	10.0	9.6	13.5	12.8
会津若松市	9.0	7.5	11.0	9.9	9.6	8.4	12.4	11.0
郡山市	10.3	8.8	12.1	11.4	12.0	10.5	14.5	13.7
いわき市	8.6	7.3	11.2	10.0	9.3	8.5	13.3	11.9
白河市	8.8	7.4	12.1	10.8	10.4	9.5	13.8	12.2
須賀川市	8.7	7.6	11.9	11.1	9.8	9.2	13.8	12.7
喜多方市	6.6	5.6	10.5	8.6	8.2	6.9	10.7	9.1
相馬市	8.9	7.2	12.0	10.3	10.4	8.7	13.1	11.4
二本松市	8.3	7.3	10.9	9.6	10.0	9.1	12.0	10.8
田村市	8.0	6.9	9.9	8.8	9.5	8.4	9.8	8.7
南相馬市	7.4	5.0	9.8	8.0	8.8	7.6	13.1	11.8
伊達市	7.4	6.6	9.9	8.8	8.7	8.2	11.5	10.6
本宮市	9.0	7.5	12.8	11.6	10.7	10.0	13.6	12.4
(参考)	平成27年10月1日(国勢調査)				平成22年10月1日(国勢調査)			
全国	10.2	9.8	12.8	12.4	11.2	10.3	14.0	13.6
福島県	9.2	8.0	11.8	10.5	10.0	9.0	12.2	11.7
福島市	9.8	8.8	11.9	8.8	10.1	9.7	13.7	12.8
青森市	8.2	7.6	11.9	10.8	9.5	8.9	13.9	12.6
盛岡市	10.9	9.9	12.6	12.0	11.8	11.3	11.8	13.2
仙台市	12.4	11.6	12.9	12.9	13.9	13.4	15.8	15.3
秋田市	9.0	8.2	11.7	10.9	10.1	9.4	13.9	12.6
山形市	9.5	9.7	12.8	11.8	10.4	10.6	14.0	12.9

市名	平成30年－平成23年			
	20～29歳		30～39歳	
	男性	女性	男性	女性
福島市	△ 0.5	△ 1.2	△ 2.4	△ 2.5
会津若松市	△ 0.6	△ 0.9	△ 1.4	△ 1.1
郡山市	△ 1.7	△ 1.7	△ 2.4	△ 2.3
いわき市	△ 0.7	△ 1.2	△ 2.1	△ 1.9
白河市	△ 1.6	△ 2.1	△ 1.7	△ 1.4
須賀川市	△ 1.1	△ 1.6	△ 1.9	△ 1.6
喜多方市	△ 1.6	△ 1.3	△ 0.2	△ 0.5
相馬市	△ 1.5	△ 1.5	△ 1.1	△ 1.1
二本松市	△ 1.7	△ 1.8	△ 1.1	△ 1.2
田村市	△ 1.5	△ 1.5	0.1	0.1
南相馬市	△ 1.4	△ 2.6	△ 3.3	△ 3.8
伊達市	△ 1.3	△ 1.6	△ 1.6	△ 1.8
本宮市	△ 1.7	△ 2.5	△ 0.8	△ 0.8
(参考)	平成27年－平成22年			
全国	△ 1.0	△ 0.5	△ 1.2	△ 1.2
福島県	△ 0.8	△ 1.0	△ 0.4	△ 1.2
福島市	△ 0.3	△ 0.9	△ 1.8	△ 4.0
青森市	△ 1.3	△ 1.3	△ 2.0	△ 1.8
盛岡市	△ 0.9	△ 1.4	0.8	△ 1.2
仙台市	△ 1.5	△ 1.8	△ 2.9	△ 2.4
秋田市	△ 1.1	△ 1.2	△ 2.2	△ 1.7
山形市	△ 0.9	△ 0.9	△ 1.2	△ 1.1

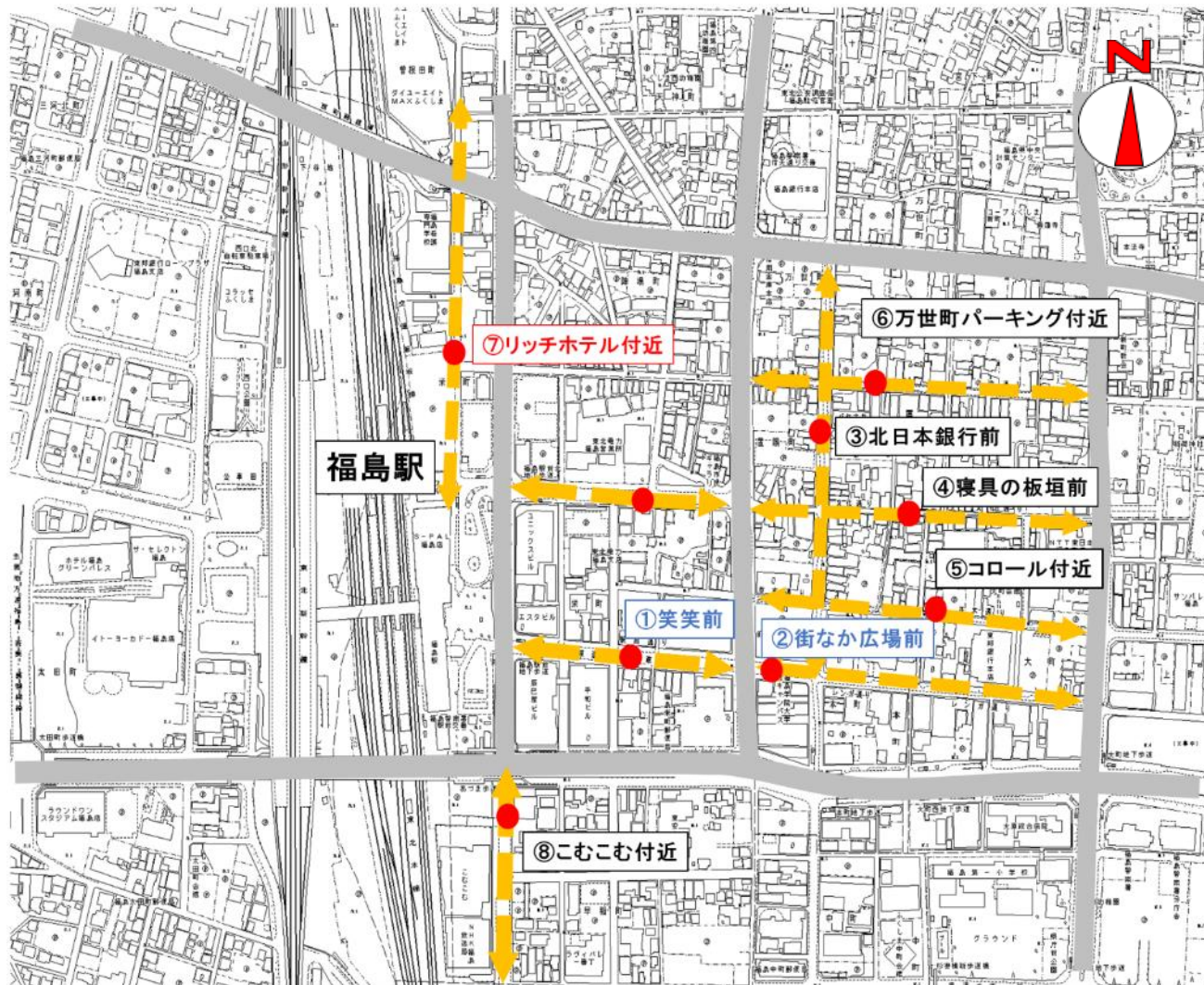
総務省「国勢調査」、福島県「福島県の推計人口」

全国に比べ20～30歳の占める割合が**低い**

H23～H30にかけて**減少**している

②歩行者通行量について

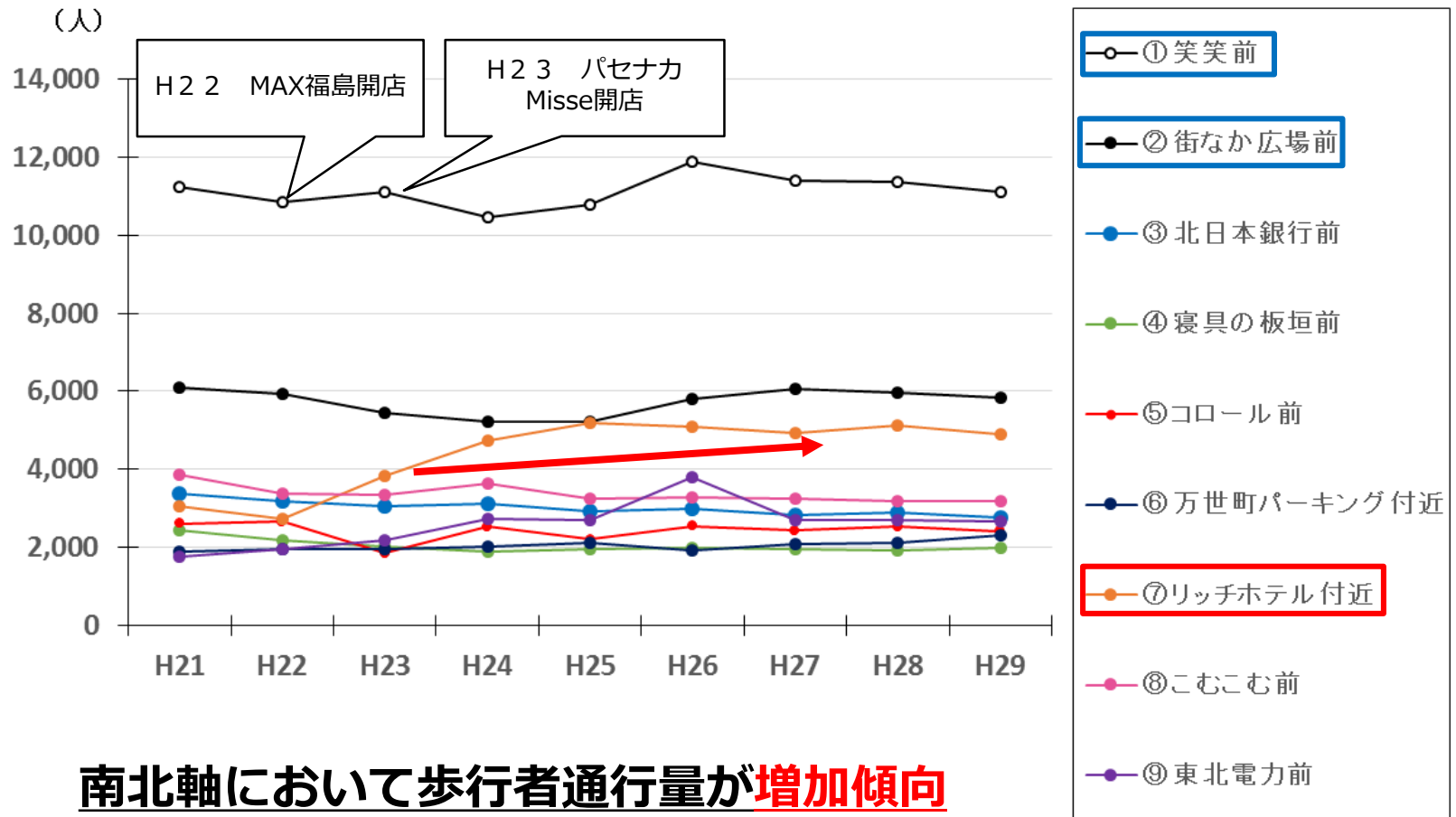
中央地区の歩行者通行量（調査地点）



資料) 商店街変動調査結果報告書 (福島市商業労政課)

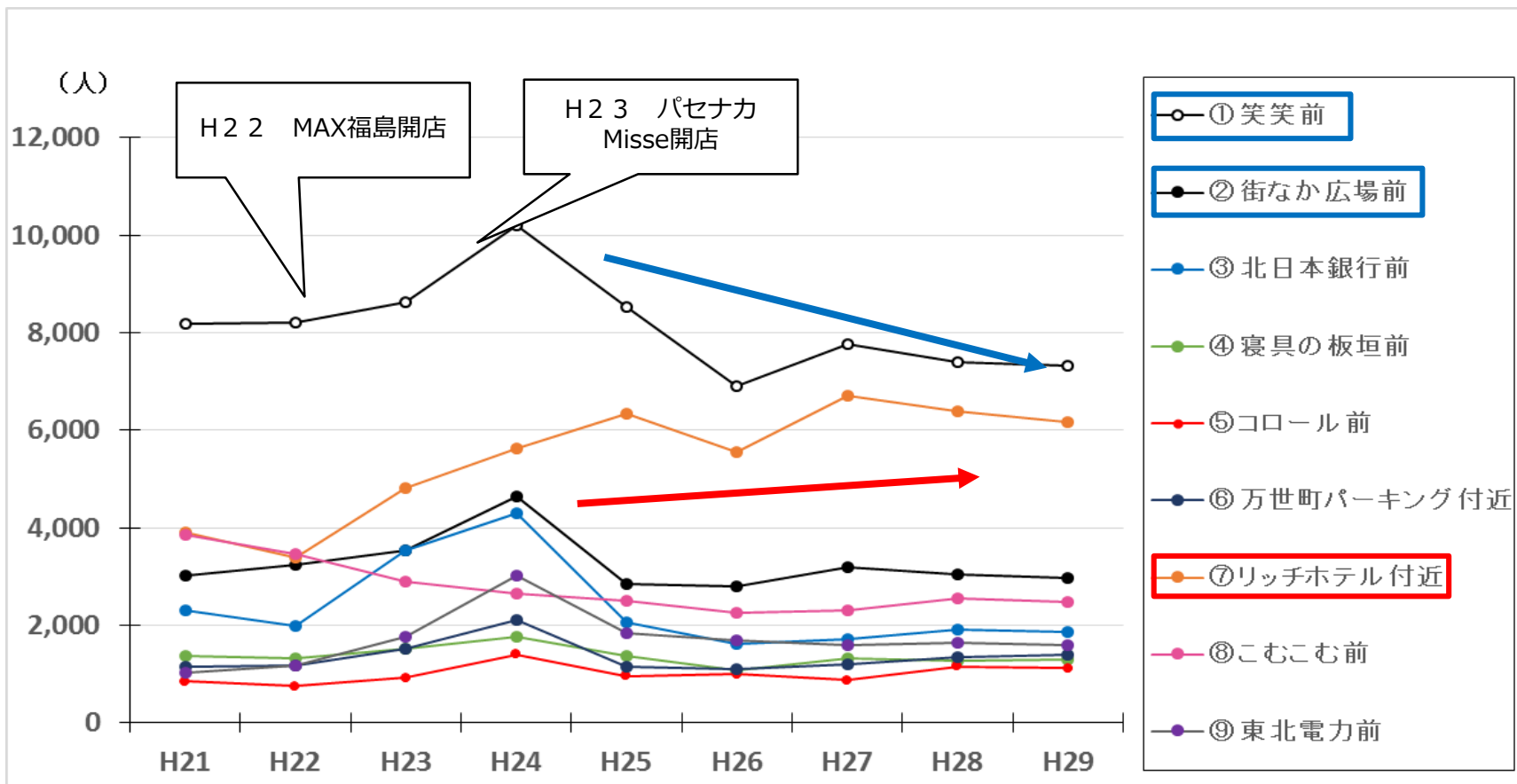
中央地区の歩行者通行量（平日）

資料）商店街変動調査結果報告書（福島市商業労政課）



中央地区の歩行者通行量（休日）

資料）商店街変動調査結果報告書（福島市商業労政課）

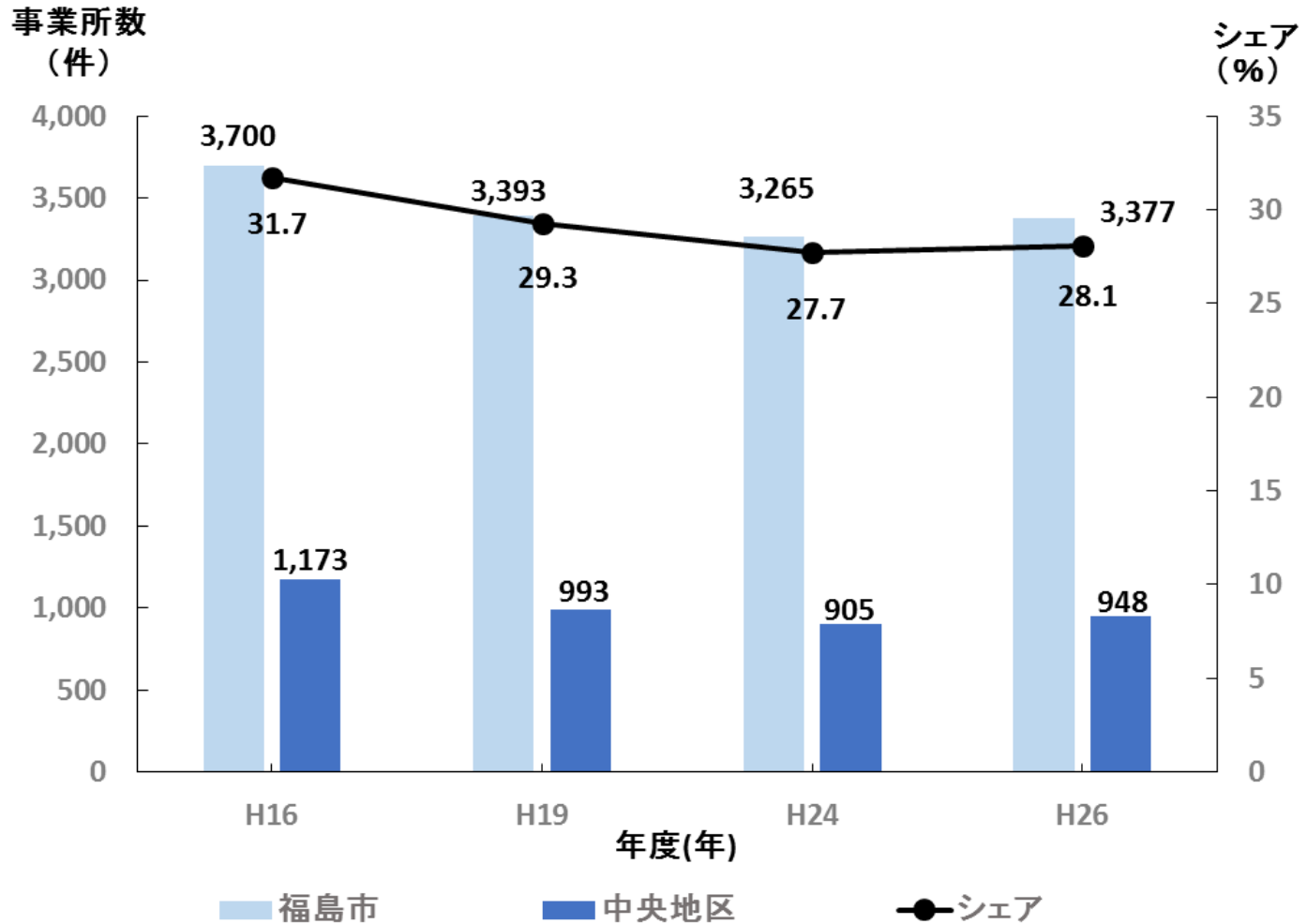


南北軸において歩行者通行量が**増加傾向**（休日が多い）

東西軸において歩行者通行量が**減少傾向**（休日が少ない）

③地区別事業所数

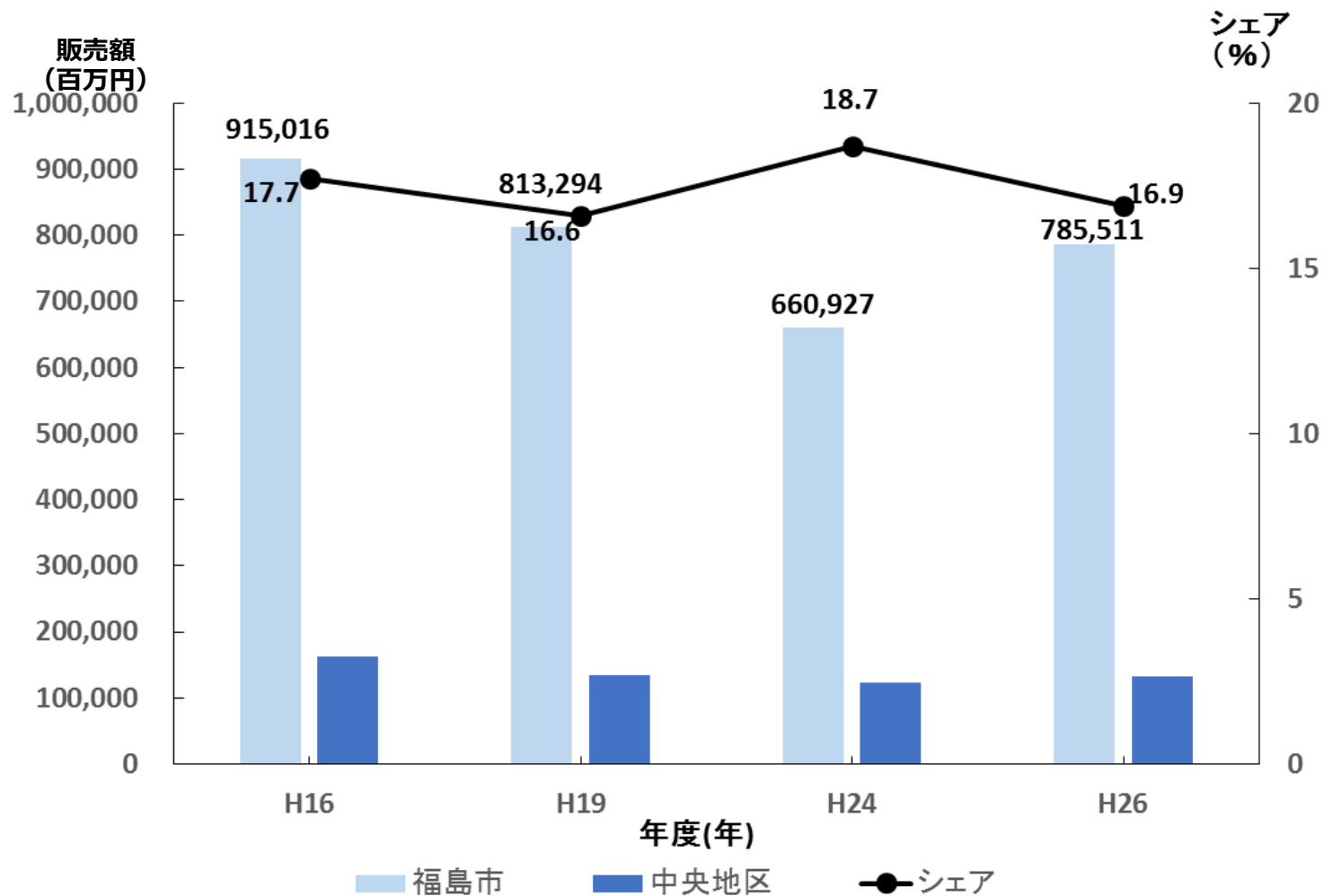
資料) 商業統計調査結果報告書・経済センサス



減少傾向にあるがH 2 4から増加

④年間商品販売額

資料) 商業統計調査結果報告書・経済センサス



H16から減少傾向

⑤市内における買物場所とその利用率の推移

表2-1 調査年度別買物場所利用頻度の上位地区

単位：%

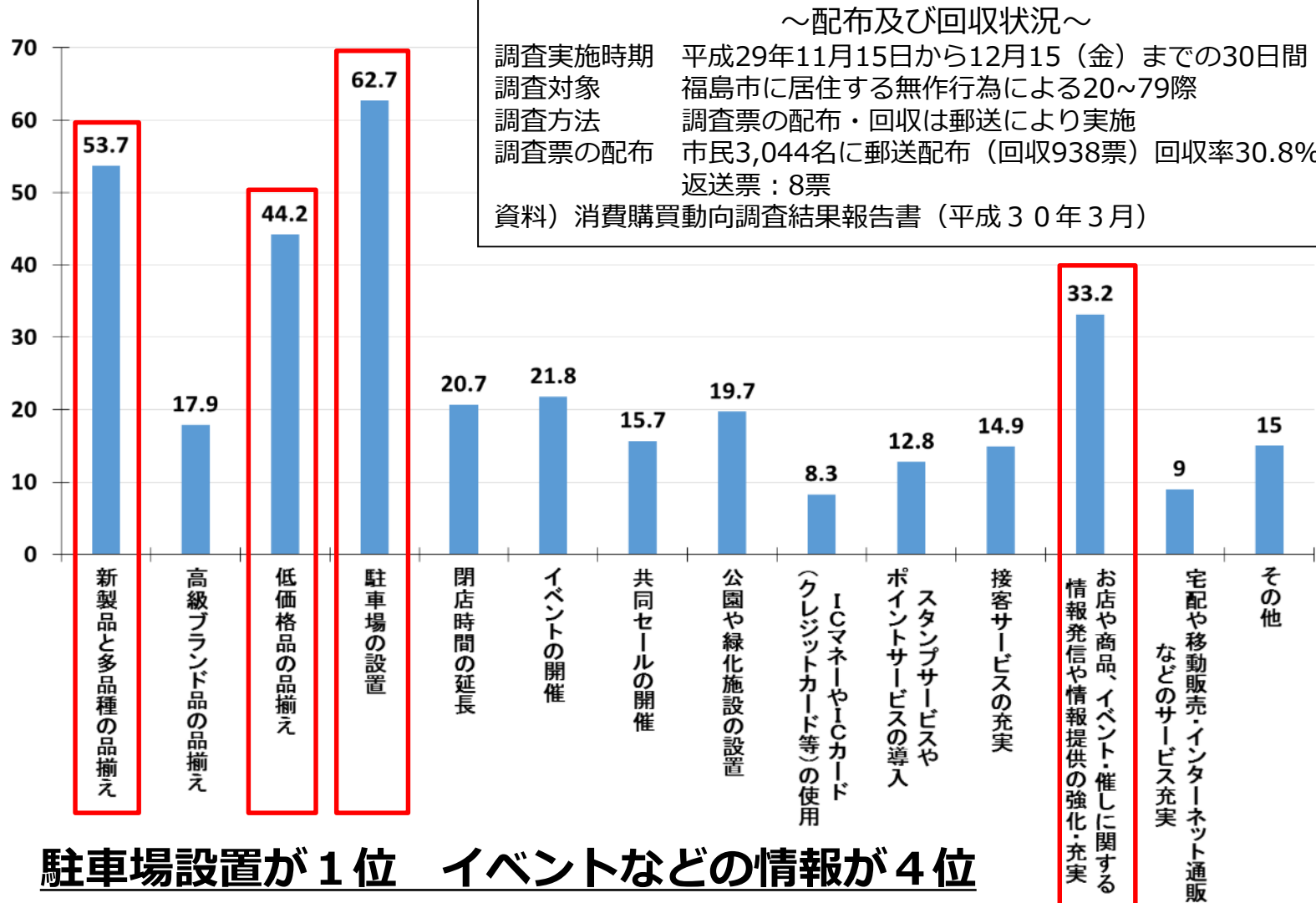
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
平成14年度	中央(駅東口 周辺)15.8	清水 13.0	杉妻、余目・矢野目(北信) 11.2		中央(駅西口 周辺)9.3
平成17年度	杉妻 14.5	余目・矢野目 (北信)12.6	清水 11.9	中央(駅東口 周辺)11.7	中央(駅西口 周辺)8.2
平成20年度	余目・矢野目 (北信)12.8	杉妻 11.6	清水 11.3	中央(駅東口 周辺)11.1	中央(駅西口 周辺)8.2
平成23年度	杉妻 12.2	余目・矢野目 (北信)12.0	中央(駅東口周辺)、清水 10.8		中央(駅西口 周辺)6.4
平成26年度	杉妻 13.2	余目・矢野目 (北信)11.5	中央(駅東口 周辺)10.5	清水 9.8	中央(駅西口 周辺)7.3
平成29年度	杉妻 13.2	清水 9.8	余目・矢野目 (北信)9.6	中央(駅東口 周辺)8.9	中央(駅西口 周辺)6.4

大型店舗（長崎屋・コルニエツタヤ・中合式番館等）が撤退

1位から4位へ転落 郊外店へ買い物客が移動

⑥ 中心市街地の消費ニーズ

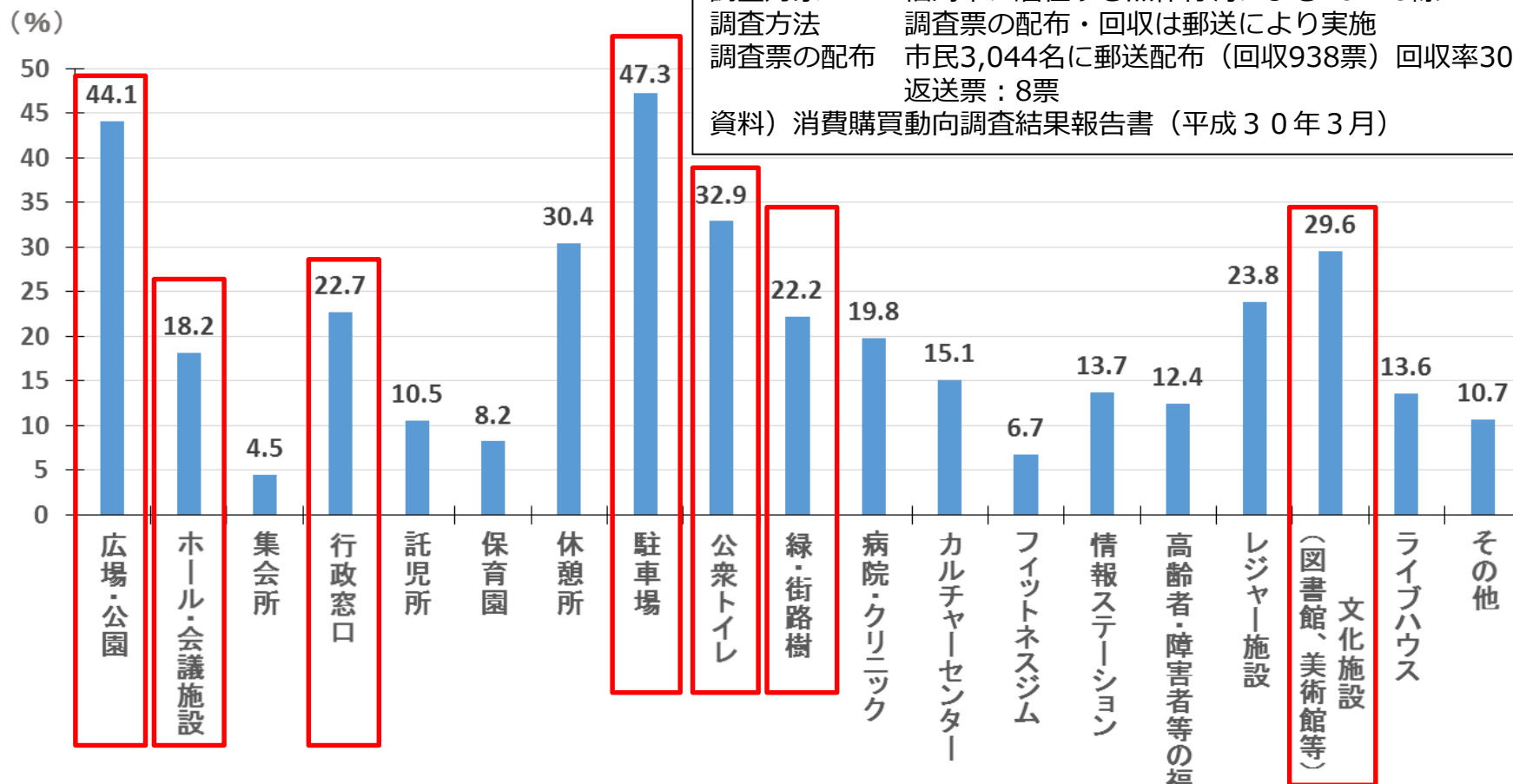
中心市街地の商店街に対する要望



中心市街地商店街への希望施設

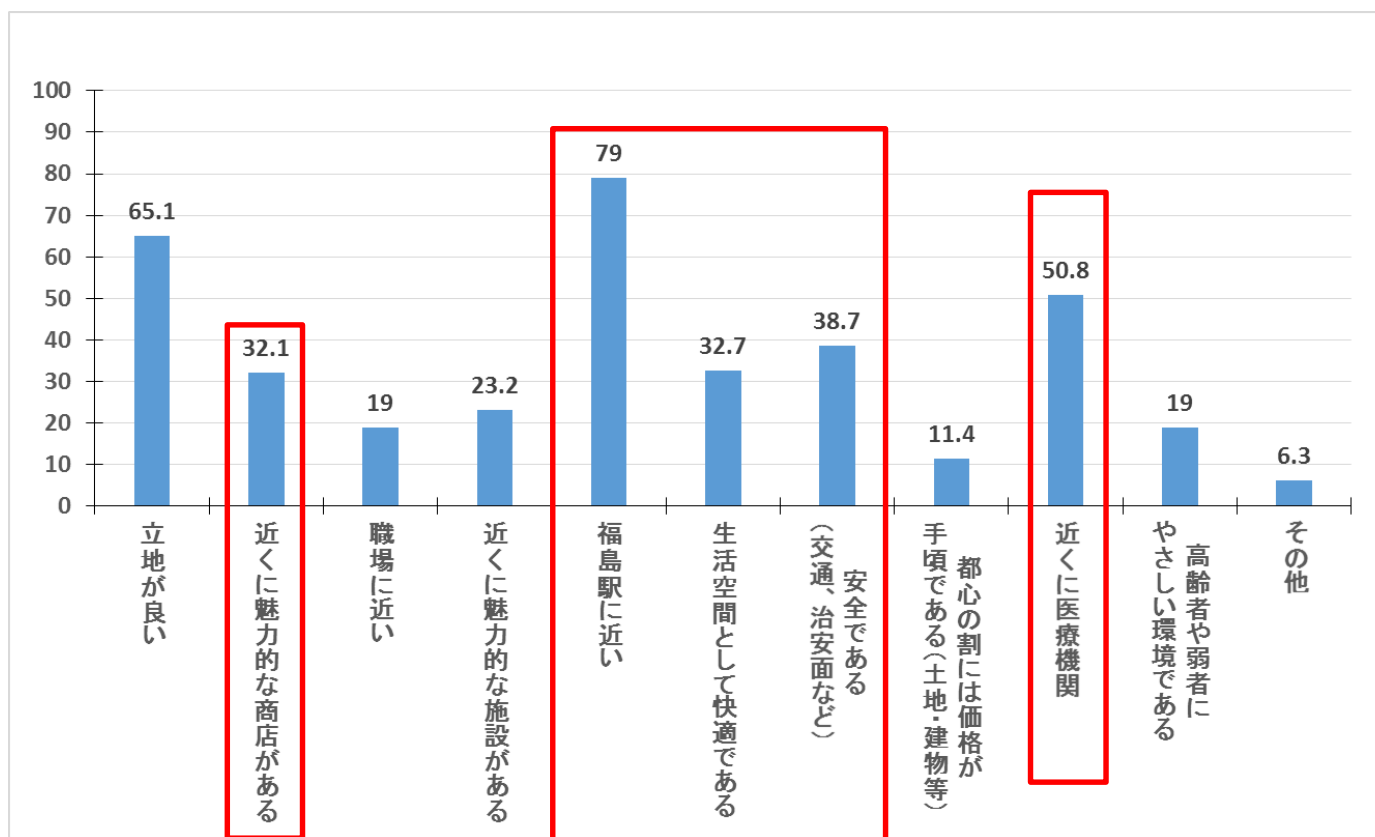
～配布及び回収状況～

調査実施時期 平成29年11月15日から12月15（金）までの30日間
 調査対象 福島市に居住する無作為による20～79歳
 調査方法 調査票の配布・回収は郵送により実施
 調査票の配布 市民3,044名に郵送配布（回収938票）回収率30.8%
 返送票：8票
 資料）消費購買動向調査結果報告書（平成30年3月）



駐車場、広場・公園、公衆トイレ、文化施設の順

都心居住に興味や関心のある方の意見



資料) 消費購買動向調査結果報告書 (平成30年3月)

近くに駅、医療機関や魅力的な商店があり、

安全で快適な生活空間を望んでいる

⑦人口動態や歩行者通行量等の社会情勢から

- ・ 地方都市においては、**人口減少**・**少子高齢化**が進む
- ・ 中心市街地の**歩行者通行量が減少**し、**賑わいが衰退**している
- ・ 事業所が減少し、商品販売額も減少している

⑧市民の意向から

◆中心市街地への要望

- ・ **文化施設**及び**駐車場の充実**
- ・ **公園**・**広場**・**公衆トイレ**等の**憩いの場の充実**

◆都心居住に関する要望

- ・ 魅力的な商店や**医療機関**が必要
- ・ 交通や治安における**安全確保**が必要
- ・ **快適な生活空間**が必要

⑨ 課題の抽出 (都市マスタープランから)

◆ 県都としての顔づくりに関する課題

福島駅のポテンシャルを活かした集客が図られていないことから、県都としての政治・文化等の中心として**魅力あるまちづくり**を目指す必要があります。

また、都市機能の強化や駅東西等の回遊性の強化を進め、**県都にふさわしい風格と賑わいのある中心市街地の創出**に努める必要があります。

中心市街地の商業活性化や企業家の支援、時代のニーズに即した産業の誘致等を進めていく必要があります。

◆ 広域圏をけん引するまちづくりに関する課題

県都として政治・文化等の中心としてのみならず、**県北地域の中心都市**として、行政・商業・業務・学術・文化機能等の集積を活かし、**広域圏の活性化を牽引する都市機能**の充実を図っていくことが求められています。

◆国際化へ対応したまちづくりに関する課題

来訪する外国人や居住している外国人へ東日本大震災や放射能災害からの復興をアピールする役割も含めて、産業・観光・学術など様々な面で**国際的な情報発信**や**交流**を推し進め、広域的な役割やまちの活性化につなげていくことが必要です。

◆地域特性を生かしたまちづくりに関する課題

自然や文化等の**福島の特産物の資源**を活用し、連携を図りながら魅力づくりを行う必要があります。

◆コンパクトなまちづくりに関する課題

人口減少社会における厳しい行財政状況の中において、**公共施設等の効率的な再編**や維持管理及び長寿命化対策、既存ストックの有効活用など、効率的・効果的で持続可能な都市運営を図っていく必要があります。

◆人口減少と少子・高齢化に対応したまちづくりに関する課題

人口減少・高齢化社会が進む中、都市の活力を維持・増進していくためには、**定住促進**や**観光・交流人口の拡大**を図る必要があります。

医療・福祉機能の充実や住環境の整備、**居住促進のための支援対策等**、身近に健康づくりができるような環境づくりも必要です。

子育て支援対策や若者が活躍できる場づくりなど、**若年層への魅力づくり**も必要です。

◆官と民の連携と市民協働に関する課題

市民や様々な活動団体への支援を行うとともに「**協働の街づくり**」を進めていくことが必要です。

中心市街地の強みを活かし、特色ある成長を図るためには、民間企業のノウハウや資本を活用するなど**民間活力の導入**により、効率的・効果的なまちづくりが必要です。

そのためには、民間企業が喚起するための官による**基盤整備**など段階的な取り組みが必要です。

◆ 課題のまとめ

A 駅周辺の魅力形成について

- ・ 駅に近い優れた立地性を生かした集客機能が必要
- ・ 国際的・広域的な「高次都市機能」が必要
- ・ 周辺施設と連携した回遊性が必要
- ・ 東西をつなぐ東西自由通路の回遊環境整備が必要
- ・ 地域特性を生かした通りの形成が必要

B コンパクトなまちづくりについて

- ・ 既存公共施設の再編整備にあわせた機能配置の検討が必要
- ・ 駅東口・西口の特徴を生かした役割分担が必要

C 街なか居住について

- ・ 駅に近い優れた立地性を生かした**居住環境整備**が必要
- ・ 若者・従業者等の**街なか居住**を促進する取り組みが必要
- ・ **定住支援対策**が必要

D 実現に向けて

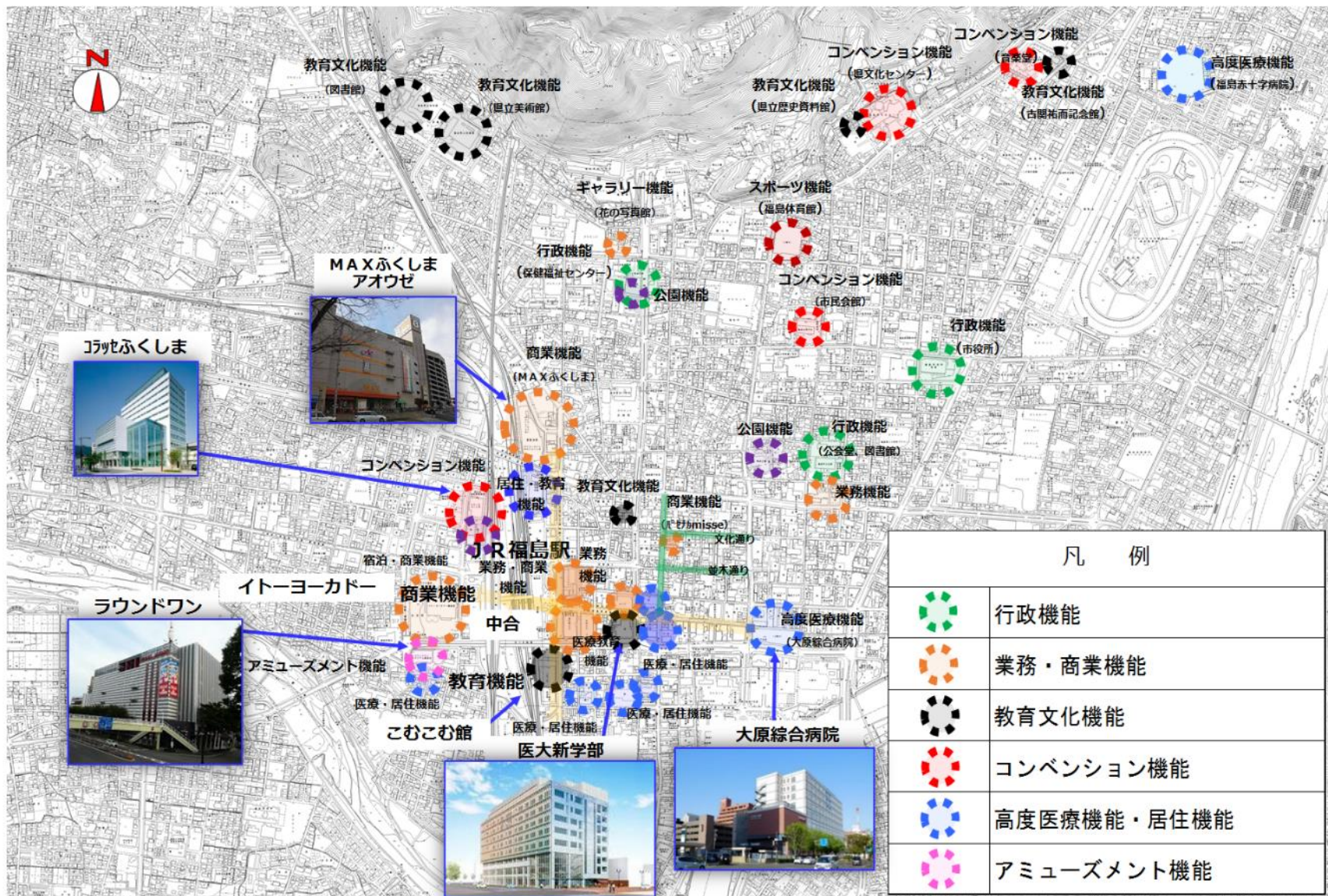
- ・ 民間需要を喚起するための**段階的な整備**と取り組みが必要
- ・ **官と民が連携した事業の推進**が必要



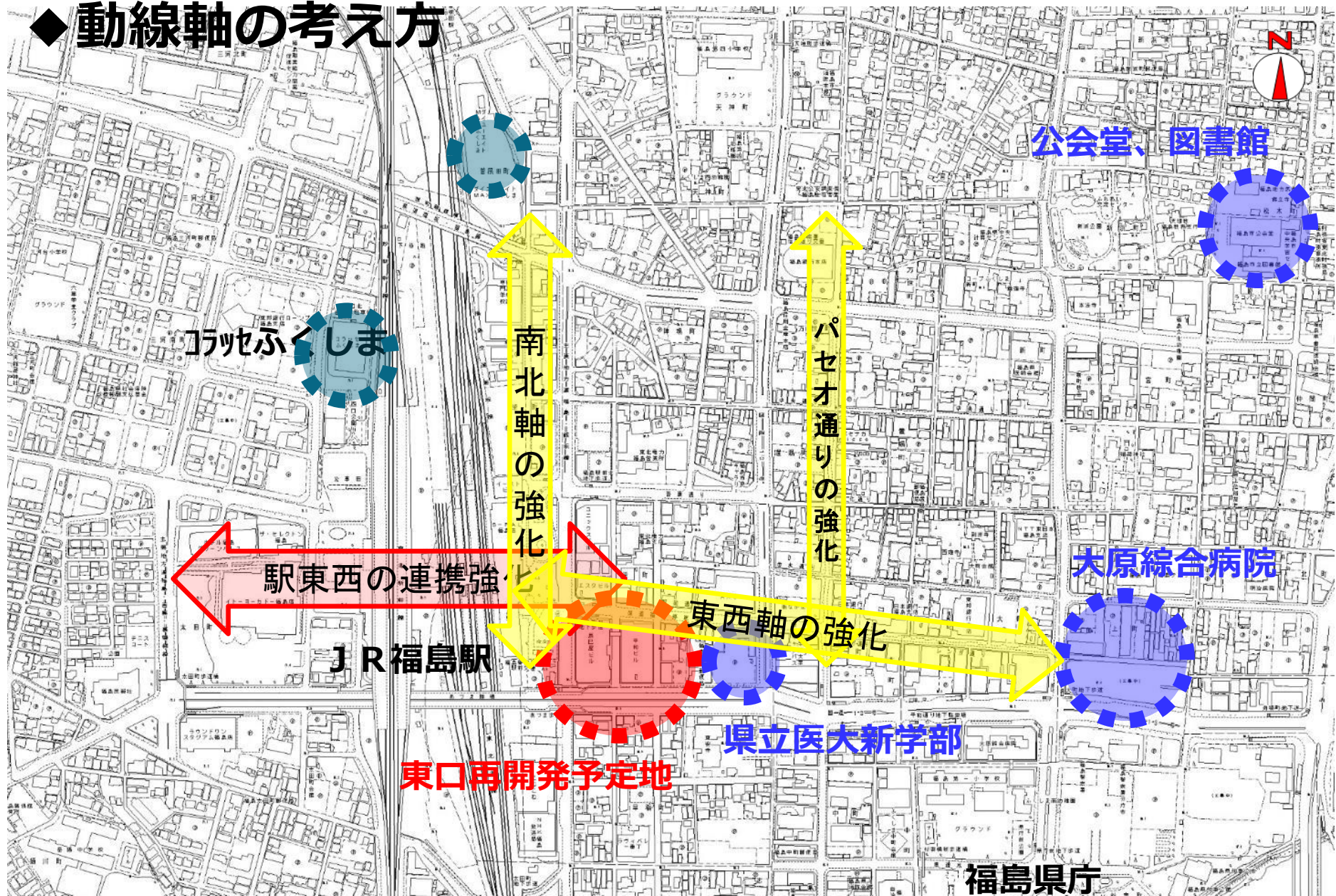
「交流人口の拡大」 「賑わい創出」

◆現状の都市機能

別図②



◆ 動線軸の考え方



(参考)

～ 福島市公共施設の戦略的再編整備検討委員会 ～

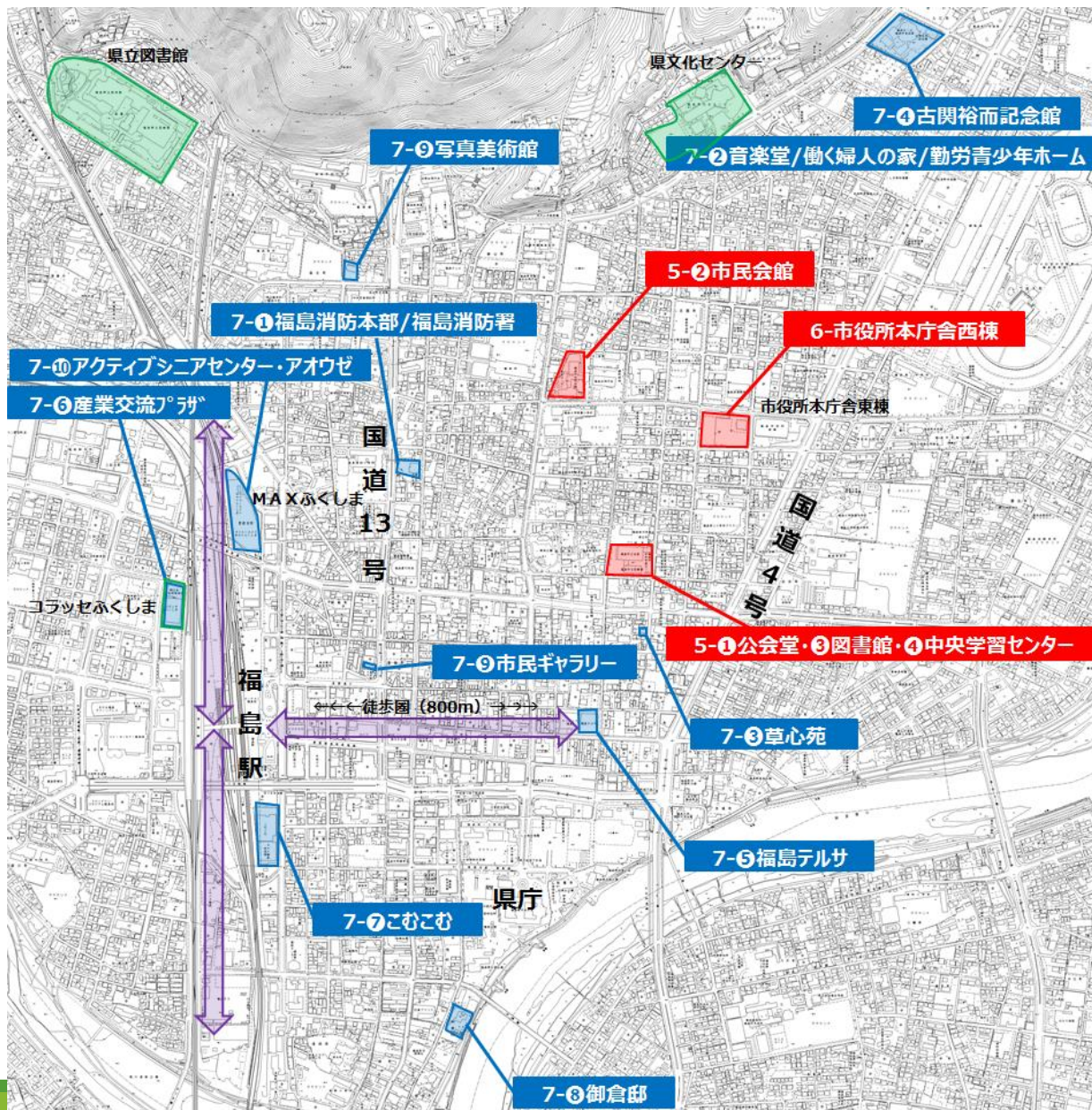
中心市街地活性化区域内に立地している老朽化した公共施設（主に4施設）、建設を延期している市役所本庁舎西棟、整備を検討しているコンベンション施設に加え、サッカースタジアムや福島駅新東西自由通路等について、学識経験者や有識者、各関係団体等からなる検討委員会を設置し、再編整備の基本的な方向性や官民連携の可能性について検討を行う。

第1回検討委員会

平成30年5月29日に開催

中心市街地活性化区域内に立地する公共施設位置図

別図③



市公共施設の状況について

①公会堂（昭和34年竣工：築59年）



【施設基礎情報】

所在地：福島市松木町

構造：地上3階・地下1階（SRC造）

延床面積：4,259㎡

駐車場：45台

設備：ホール1,273席/楽屋控室4室

【施設概要】

本市の集客施設の中核として長年親しまれてきたシンボリック施設で、演劇や舞台の鑑賞会、各種講演会をはじめ、市民芸術活動の発表の場として多くの団体に利用されてきた。

【施設現況】

①施設老朽化により、平成30年3月末をもって休館

②新耐震基準に不適合

【利用状況】

①年間利用者は約6万人、ホール平均稼働率21%

②年間運営費約5千万円

③立地状況はバス路線・幹線道路沿線外

④市内類似施設

パルセいいざか（1,940席）、

県文化センター（1,752席）、

福島テルサ（473席）、音楽堂（1,002席）等

②市民会館（昭和46年竣工：築46年）



【施設基礎情報】

所在地：福島市霞町

構造：地上7階(RC造)

延床面積：6,547㎡

駐車場：100台

設備：ホール×2 / 会議室×19 / 茶室茶道室
×2 / 華道室 / 料理教室 / 音楽室

【施設概要】

本市の基幹的集会施設として長年市民の集会等に利用されてきた。

【施設現況】

- ①築46年経過により施設老朽化が進行
- ②新耐震基準に不適合(避難所指定あり)

【利用状況】

- ①年間利用者は約19万人、全館平均稼働率42%
- ②年間運営費約1.3億円
- ③バス路線・幹線道路沿線に立地している
- ④施設内に「さんどパーク」、「敬老センター」が併設
- ⑤市内類似施設
アオウゼ、福島テルサ、中央学習センター 等

③図書館本館（昭和33年竣工：築59年）



【施設基礎情報】

所在地：福島市松木町

構造：地上3階(RC造)

延床面積：2,694㎡

駐車場：20台

蔵書冊数(H27末)：本館436,129冊
全館910,241冊

【施設概要】

市民の教育と文化の振興を図るために設置され、図書館分館と各学習センター図書室を取りまとめる、中央館としての機能を持つ

【施設現況】

- ①築59年経過により施設老朽化が進行
- ②新耐震基準に不適合

【利用状況】

- ①年間利用者は約6.8万人（入館者16万人）
- ②年間運営費約3.1億円（一部分館及び図書室経費を含む）
- ③立地状況はバス路線・幹線道路沿線外
- ④住民1人あたり貸出冊数は3.3冊（全国平均5.2冊）
- ⑤市内類似施設：県立図書館

※ほかに図書館分館が同一地区に2館、学習センター図書室が各地区単位で16室

④中央学習センター（昭和34年竣工：築59年）



【施設基礎情報】

所在地：福島市松木町

構造：地上3階・地下1階（RC造）
（公会堂と合築）

延床面積：2,009㎡

駐車場：26台

設備：講義室×5/和室×2/ホール×2

【施設概要】

市民の生涯にわたる学習活動を推進し、市民の教養の向上、生活文化の振興及び社会福祉の増進を図るために設置され、公民館事業や貸館等による生涯学習活動の支援を行う中央地区の地域コミュニティーの中核施設で、優先的開設避難所でもある。学習センター相互の連絡調整を図る中央館としての機能も有する。

【施設現況】

①築59年経過により施設老朽化が進行

②新耐震基準に不適合

【利用状況】

①年間利用者は約5万人、平均稼働率40%

②年間運営費約8千万円

③立地状況はバス路線・幹線道路沿線外

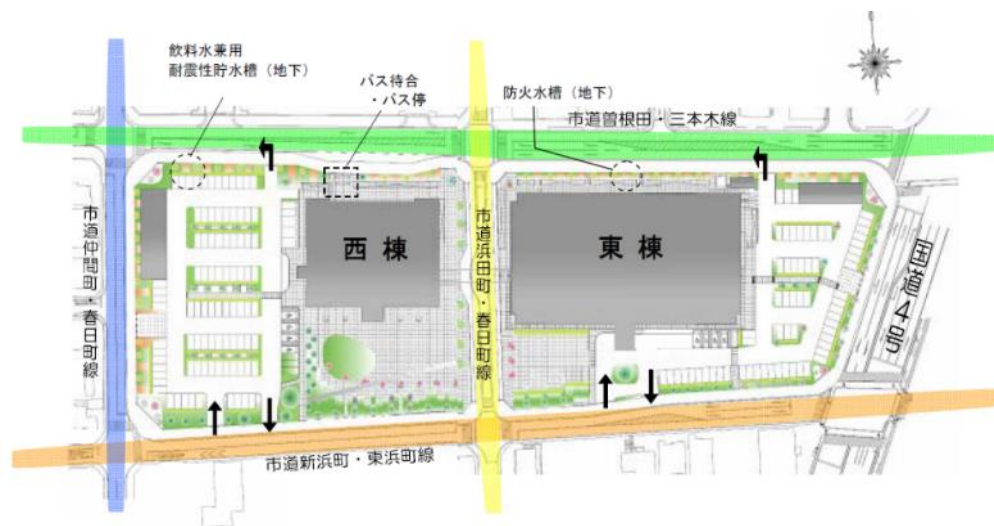
④市内類似施設

アオウゼ、こむこむ、福島テルサ、市民会館 等

⑤市役所本庁舎西棟（建設延期中）について

- (1) 地上5階、地下1階建ての庁舎建設を東棟の西側敷地に予定
- (2) 復興事業優先のため、建設を延期(H23～)
- (3) 施設機能として、「市民利用施設」、「議場」などを計画
- (4) 災害時は「市民利用施設」、「市民広場」を避難場所として利用する計画

- ・建物地下には非常食等を保管する「備蓄倉庫」の設置
- ・敷地地下には100m³の「耐震貯水槽」(飲料水等へ使用)を設置



⑥福島駅新東西自由通路について

◆ 駅東西の利用しやすい移動環境の充実が必要



① 混雑時は移動しにくい
(東西連絡自由通路)

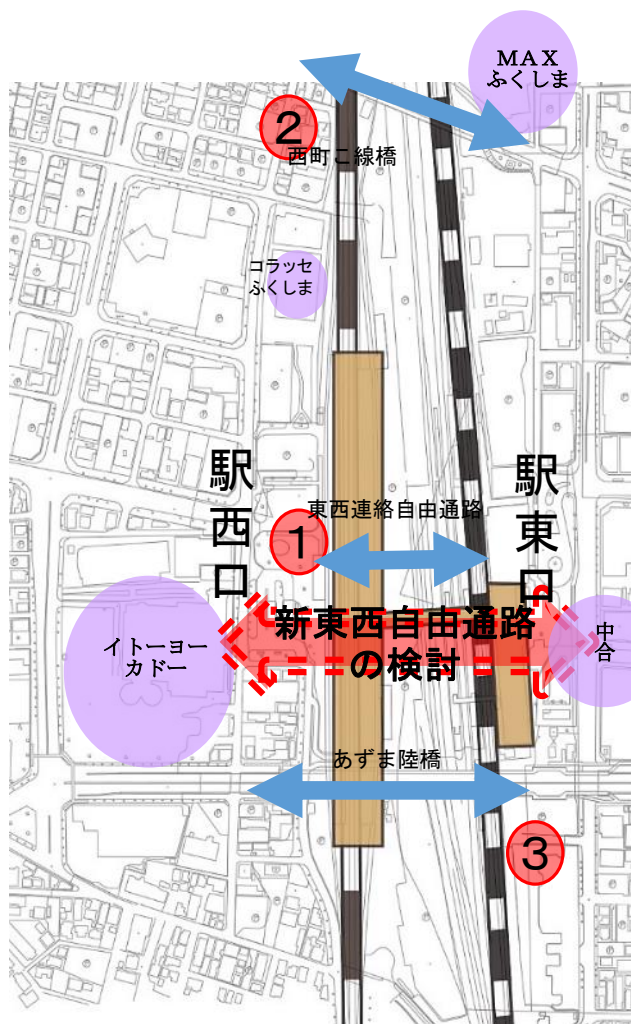


② 自転車での登坂が大変
(西町こ線橋)



③ 階段を利用しないと
駅東口に行けない
(あずま陸橋)

◆ 駅や東西の主要集客施設を間を結ぶ歩行・回遊環境の強化が必要



◆ 新東西自由通路の検討 ◆

— 駅東西の連絡機能 —

- 駅機能と回遊環境の強化
- 既存施設との連携強化

◆ 検討における課題 ◆

- 自由通路の利用促進を図り、歩行者の利便増進と駅周辺の活性化につなげ、投資効果を高めることが必須
- 一体的な改良が望まれる駅関連施設・駅ビル等を含めた民間整備との連携が重要

⑦ サッカースタジアムについて

施設の現状

市内には、サッカーに使用できる施設として、信夫ヶ丘競技場、とうほう・みんなのスタジアム、十六沼公園サッカー場等があるが、Jリーグの昇格条件(椅子席がJ1は1万5千席以上、J2は1万席以上等)を充たす施設が無い。

① 信夫ヶ丘競技場

メインスタンド(収容人員5,000人)
／バックスタンド(収容人員11,400人)
／合計16,400人

② とうほう・みんなのスタジアム(県営あづま陸上競技場)

メインスタンド(収容人員6,500人)
／芝生スタンド(収容人員14,500人)
／合計21,000人

③ 十六沼公園サッカー場

人工芝コート2面／クレーコート1面
／天然芝コート2面(整備中)



(4) 今後の進め方について

※本日の説明内容を踏まえて、次回以降

各委員の皆様からのご意見を頂きたいと存じます。

※次回以降の検討委員会は

第2回 7月 5日(木) 10時から(予定)

第3回 10月 9日(火)、10日(水)

(基本的に午後を予定)

第4回 11月13日(火)、14日(水)

(基本的に午後を予定)

を予定しております。

日程調整方よろしく申し上げます。